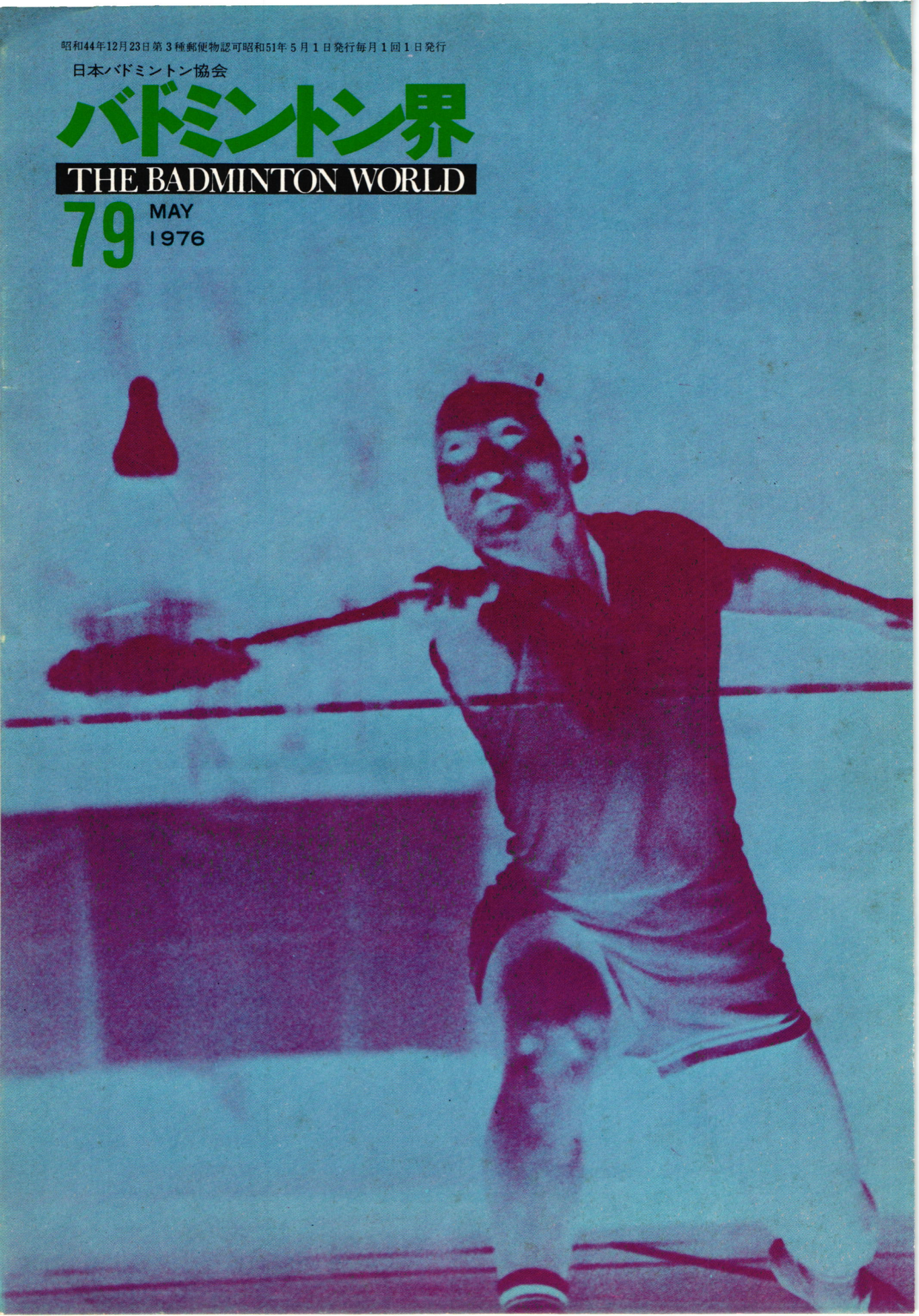
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和51年5月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

79 MAY 1976



全日本男子バドミントン
オールスターダブルス'76

8/22
(日)

am 10:30～
pm 4:00まで

国立競技場代々木第２体育館

一　般　￥２００

高校生　￥１００

（中学生以下無料）

主催　日本バドミントン協会

後援　東京12チャンネル

バドミントン界
THE BADMINTON WORLD
NO. 79

1976年5月号　目次

表紙撮影，本文中写真・山田真市，読者，イラスト・中島　潔

●第10回世界男子バドミントン選手権大会アジア地区決勝
マレーシアに惜敗，インターゾーン出場ならず……2
銭谷の単，飯野・土田の複全敗の誤算

●現地取材リポート
“王国”のバドミントンとスポーツ界――後藤忠弘……3

●特別寄稿＝夜明けの時代をふりかえって
わが国バドミントンの発祥と協会発足の回想――広田兼敏……6

◆連載◆お母さんや子供のバドミントンのためのシリーズ・第3回
ラケット遊びの方法――伊藤基記……10

●第4回全日本実業団・学生バドミントン選抜大会
電電東京，日本女子体育大学が制す……29

◆新連載◆日本教職員バドミントン連盟編
審判に関する100問集……32

●第7回ユーバー杯大会日本チーム監督として＝最終回
選手・スタッフに感謝……34

目で見る技術講座……14

◆各地のたより◆北から南から
堀川気をはく(新潟)・NKKが辛勝(広島)……8
ベテラン三宅単複制す(岡山)・日韓の友好深める(石川)……12

●昭和51年度日本バドミントン協会検定検査用具一覧表……38
●大会予定カレンダー……40

マレーシアに惜敗、インターゾーン出場ならず

銭谷の単、飯野・土田の複全敗の誤算

第10回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）大会アジア地区決勝の日本対マレーシアの試合は、4月2日、3日の両日マレーシア・クアラルンプールのネガラ・スタジアムで行われた。

インターゾーン出場をねらう日本はコーチ兼任の小島を中心に試合に臨み、マレーシアも過去四回の優勝の意地にかけ、新人を登用した布陣で対戦した。日本は第一日で先手を取り一気に逃げこむ目算であったが、第一日で1−3とリードを奪われ、残る第二日も2−3と敗れ、結局3−6のスコアで惜敗した。

ポイントゲッターとなるはずであった銭谷のシングルス、飯野・土田組のダブルスがいずれも連敗を喫したのが大きな誤算であった。

▼記録

マレーシア　6（単3−2、複3−1）3　日本

▼第一日

ソー・スウィ・レオン	2	15−6 17−14	0	銭谷
プア・ア・フア	2	15−6 15−10	0	小島
ジェームズ・セルバライ、ムー・フット・リアン	1	7−15 15−8 16−18	2	梅野尾 池田
ドミニク・スン、チャー・ホン・チョン	2	18−15 15−4 7−15	1	土田 飯野

▼第二日

プア・ア・フア	2	15−6 15−3 8−15	1	銭谷
ソー・スウィ・レオン	1	11−15 16−17 15−11	2	小島
ムー・フット、リアン	1	15−18 15−10 11−15	2	土田
ジェームズ・セルバライ、ムー・フット・リアン	2	18−17 15−5	0	飯野 土田
ドミニク・スン、チャー・ホン・チョン	2	15−6 15−5	0	池田 梅野尾

◆日本出場選手◆

小島一平（ラケットショップ元町）
池田信孝（電電東京）
梅野尾昌一（ヨネックススポーツ）
銭谷欽治（河崎ラケット）
飯野佳孝（ヨネックススポーツ）
土田証雄（電電東京）

◆マレーシア出場選手◆

ソー・スウィ・レオン
プア・ア・フア
ジェームズ・セルバライ
ムー・フット・リアン
ドミニク・スン
チャー・ホン・チョン

▼第1回アジア招待バドミントン競技会（前号詳報）会場のディスプレイ



日本から贈られたカブトのトロフィー▶

現地取材リポート

"王国"のバドミントンとスポーツ界

後藤忠弘・日本バドミントン協会理事

バドミントンは、どのようにインドネシアの国技なのか。エリート育成の底辺ともいうべき一般市民、つまりは大衆レベルへのバドミントンのとけ込み方を見たいと、できるだけ注意を払ったつもりだが、短い滞在、それも、ジャカルタ市内がほとんど、という事情で、当初、意気込んでいたほどには、材料を集められなかった。ということを、お断わりしておいて——

＊　＊　＊

宿舎・カルティカ・チャンドラの一帯は、いわば新開地。道路をへだてた向い側は原っぱである。ここへ、夕方、一定の時刻になると、どこからともなく人が集まってくる。そして、向かって左手ではバレーボール、右手、つまり宿舎の真ん前ではサッカーを始める。

バレーは、よく見ていると六人制ルールだが、コート?に入る人間は制限なしらしく、サッカーの方も、広さだけはたっぷりあるが、攻守11人ずつでやっているわけではない。選手は一見、子供たちと思ったが、そばへ行ってみると、けっこう大人たちもまじっていた。

2個のボール（サッカー、バレー）と、ありあわせの棒に張った一枚のネット。たったこれだけの用具で、まあ、ざっと四五十人が、日没まで遊べる。なにも、外国に来て感心しなくても、自分自身の子供時代、日本はみな、こうだったじゃないかと、思い出して苦笑した。

それはともかく、着いて早々目に入ったのが"社会体育"とは、ささやかながらショック。「どっかでバドミントンもやってるはず」と、山田カメラマンを誘い、その広っぱの方に行ってみた。

実は「郊外のお金持ちの邸宅では、庭の一角をツタで囲み、しゃれた戸外コートをつくって社交場にしている所もある」と聞いていたからだ。教えてくれたのは、小宮日本バドミントン協会理事長の旧友（慶大時代ダブルスのパートナー）で、現在はここで実業家として名をあげているイスマイル・アブカシム氏だ。

話が横道にそれるが、同氏はわれわれの滞在中、自分の仕事を休んで、ほとんど連日、親身になって世話をしてくれた。同氏が留学生として慶大にいたのは、いまから二十数年前、つまり戦後間もなくの昔だが、日本語をまずは不足なく、いまでも話す。英語もうまかった。

で、このイスマイル氏によると、同氏の邸でも、むかしはコートを持っており、驚くなかれあのルディ・ハルトノも少年時代、そこでプレーして、氏に世話になったそうだ。

宿舎の向いの原っぱの奥には政府の大臣級の人々の邸宅が並んでいるので、ひょっとしたらイスマイル氏のいうようなコートが見られるのではないか。こう思ったのだが、あいにくと、その一角にはなにもなかった。

その代わり、路上コートを一つ見つけた。折りあしく、昼寝の時間で、人はいなかったが、木の枝を支柱代わりに、ネットを張るようになっていて、路面には白ペンキで、正規の大きさのコートが描かれてあった。

戸外で、羽根つきのマネごと程度のことは、日本でだってザラにやっている。しかし、わざわざ白ペンキで正規のコートはかくまいと、その時、思った。

その後、戸外バドミントンは二、三度、散見した。灯台下暗しで、カルティカ・チャンドラすぐ左手の、これまた、ただの広っぱでは、日本の露路裏と同じように、子供たちが、もう、めちゃくちゃにチビた、それでも水鳥のシャトルを、はだしで追いかけていた。

すぐ裏手の住宅街の邸の一隅では、やはり子供が羽根を打ち合っていた。これを発見したのは小飼監督。筆者の部屋に電話をかけてきてくれたので、さっそく行ってみると、そのすぐそばの駐車場になっている、コンクリートの空き地には、これも白ペンキで、コートがかかれていた。

ナイターも一度だけ見た。といっても、日本料理を食べに行くタクシーの中から、邸の前庭で、玄関の灯りでラケットを振っているのを、一瞬、とらえただけだが、これで、イスマイル氏の説明が嘘でなかったことがはっきりした。

「一にサッカー、二にバドミントン…」この国で人気のあるスポーツは、と質問すると、間違いなく、だれでも、こう答える。つまりはこれがナショナル・スポーツ。三位以下は（?）だが、新聞のスポーツ面の手応えから見ると、テニス、ゴルフにボクシング。ゴルフは上流階級の新しいスポーツとして人気

が高まっており、テニスやボクシングでは、日本の英字新聞にも載らぬような記事まで、大きく出ていた。サッカーは国際的にはまだ弱いが、人気は大変なものだ。

折りからジャカルタには、オランダのアヤックス、英国のマンチェスター・ユナイテッドという、世界的に有名な両コーチが来ていた。インドネシアと三国対抗の形で試合をするためだ。ユーバー杯の日程は、このあおりで、実は変更され、バドミントンとサッカーが交互に一日置きで行われた。会場が同じ所にあって混乱が予想されるし競合すれば、入場者が減ることを考えたのだろう。結果的にサッカーの一番いいカードには十万の大観衆が入り、万々歳であった。

いわば、サッカーには一目置いた形のバドミントンだが、そうはいっても、人気そのものはやはり横綱級。新聞の扱いなどを見ても、他をぐんと引き離している。

ジャカルタの空港に到着した時、インドネシアのバドミントン協会からは、全然、出迎えがなかった。あとでわかったが、両国協会間で連絡が行き違いになっていたらしい。宿舎も、われわれが出発前に聞いてきたところではなかった。

インドネシアは税関のチェックが厳しいといわれている。商売上、これは当り前の話なのだが、何台もの種類のちがったカメラと、無教のフィルムを持ってきた山田カメラマンなどは出発時から、あれこれ心配のしっぱなしだった。

そこで、税関でもし、もんちゃくでも起こったときは、インドネシア協会の人でもいれば大いに助かるがなあ、というのが内心の気持ちだった。ところが現実には、われわれ一行がユーバー杯のチームとわかると、荷物は全然見ずに、フリーパスとなってしまった。

テニスの世界では、デ杯の選手は〝紳士〟の代名詞といわれる。それで相手がデ杯の選手とわかると、無条件で信用され、商談などもスムーズに進展するという。インドネシアでは、バドミントン選手も、それと同じような〝信用〟があることが、これでわかった。

情報集めの得意な小飼監督がジャカルタ入りして間もなく、筆者に「これも記事になるよ」と売り込んできたエピソードも書き落とせないだろう。

すなわち――さる三月、個人の世界一を決める全英選手権の男子シングルス決勝で、ご存知の通り、ハルトノがプリ（デンマーク）に負けた。この試合は宇宙中継されたが、国民的英雄の敗戦に、テレビを見ていた一人がショック死してしまった。テレビ放映中、五百万の人口を持つ東南アジア一の大都会ジャカルタの主な通りからは人影がほとんど消えた、ともいう。

いささか、出来すぎた話だがサッカーのワールド杯や、米大リーグのワールドシリーズなどでは、往々にして興奮しすぎて天国へ行く人が絶えないし、日本でも、かつて〝君の名は〟というドラマが女性の人気を集めた時、放送時間中、銭湯の女湯は空になった、ともいうから、そのまま信用しよう。いずれにしろ全英選手権の中継など、日本では考えられないことだ。

ハルトノの試合とともに、女子シングルスも放映されたとかで、市民は、とくに同性である女の人たちは湯木博恵の顔をよく知っていた。どこへ行っても「ユキ、ユキ」であり、市内の東京銀行に行った時は、従業員がみな仕事の手を休めたため、短い間とはいえ、業務がマヒしてしまった。もっとも、この現場を筆者は自分で見ていない。

バドミントンがいくら人気スポーツで、スソ野の広がりがあるといっても、みんなが戸外だけでシャトルと遊んでいるわけではない。れっきとした室内コート、クラブも、もちろん数多く見られる。

日本チームが練習会場として割り当てられた「ジャヤ（大ジャカルタ）スポーツ・センター」は73年4月の完成。バドミントンのほか、フェンシング、空手の道場、トレーニング・ジムとボクシング・リングもある。

バドミントン・コートは三面とれ、シャワー、更衣室（十分には機能していなかった）があり、冷い飯みものも売っている。

暑くて（30度を軽く越す）すぐ汗が吹き出てくるのには閉口するが、残念ながら、日本にはバドミントン専用の体育館が一つもないのだから、と思い直して我慢する。

日本チームにコートを提供して、見物役に早変わりした市民に聞くと、一時間六百ルピア（ルピアは日本円の七、八割。つまり六百ルピアなら四百五十円ぐらい）払えば、だれでも来てプレーできる、という。

ついでに聞くと、ラケットは一般用で千五百から三千ルピア

インドネシアのバドミントン協会

▽会長　スジルマン
▽副会長（三人）エマン・スバルマン、スカダ・ソマウイジャヤ、J・C・タンブナン
▽専務理事　P・スマルソノ
▽会計理事　スハルソ・スナンディナタ
▽理事　R・メルジョノ
▽副会計理事　スサトヤ・ムンディスギ
▽競技委員長　スジョノ・メルトディプトロ
▽同副委員長　ラムリ・リキン
▽普及委員長　B・ハラハプ
▽トレーニング委員長　タヒール・ジィデ
▽技術委員長　ウィリ・K・ブディマン
▽同副委員長　ティプト・カルジャジ

ぐらい、シャトルコックは百五十から二百ルピア、とのことだった。これら用具は、地元インドネシア製のものもあるが、わがメードイン・ジャパンもいくつかあった。

このスポーツセンターのような市営のバドミントンのコートはジャカルタ市内に10ヵ所ぐらいある、と彼等はいう。ユーバー杯の会場があるセナヤンは、東京でいうと神宮外苑かいわいか駒沢スポーツ公園に相当し、陸上、サッカー、バドミントン、アイススケート場などのほかに四つほど、体育館がある。その中のホールB、ホールCという小体育館は、ともにコートが3面とれ、二、三百人なら収容できるスタンドつきの、これまたバドミントンのクラブ用であった。

この中の一つ、ホールCで、別記のように、インドネシアのユーバー杯二軍と、日本からツアーで行った井上（日体大）らが親善マッチを行ったのだ。ここで聞くと「4時間千二百ルピアで1コートを借り切り」できるという。四人でなら一人当たり三百ルピアにすぎない。

こう考えてみると、なるほど安そうだが、ちょっと待った、当国で、いわゆるサラリーマン中堅階級の月給は、ざっと二万ルピア。（これでは苦しいからいろんな形での副収入を大いにはかるというが）一日、五百ルピアずつ使っても、月給は消えてしまう計算だ。つまり、貧乏では、バドミントンはやれない、ということ。底辺の広がり、大衆的スポーツといっても、おのずと限界のあることがわかる。

ユーバー杯では、全試合を国営のテレビ放送が放映した。これまた、日本では考えられないことだ。会場のスポーツ・パレスは収容人員が一万。東京の人なら、スタンドの高さが東京体育館の2倍あると思えばよい。あまりに広いので、ためしに数えながら上ってみると、スタンドは26列だが、てっぺんまでの階段は60段もあった。最上段から見下すと、中央のコートはタタミ一枚ほどの感じだった。

試合コートは一面。両サイドに選手団と一般大会役員席、そのうしろには、お金になる観衆を入れた。日本のように定員だの消防署だのがうるさいわけでないから、通路までぎっしりつめても、一向に平気。入場料は別表の通り、この国にしては、なかなかのお値段だが、インドネシアの出た夜は、すべて一万二千人の超満員だった。こんな熱気も、とうてい、日本の比ではなかった。

その具体的な情景は、決勝戦のインドネシア×日本のページを見ていただくとしよう。ユーバー杯が日本の手から離れたあと、日本大使館員や、現地に長い商社料理店のご主人など、要するにインドネシア事情通の人々から最後に聞いた一言は、ズンと胸にこたえた。いわく「負けてくれて、よかった。これで両国の関係がうまくいく」

最後に、選手強化の面に触れておこう。インドネシアは大小合わせて三千もの島々から成り立っているそうだが、この広い国土は、全部で26の支部に分かれている。そして、各地区、各支部の大会を積み重ね、そこで浮かび上がった有望選手を集めて、強化する。

と、書けば日本と大差ないようだが、そうではない。集めてきてからが大ちがいなのだ。

一人一人の選手の体力、運動能力さらには精神・心理面までチェック、資料を分析、研究した上でカルテをつくってトレーニングさせる。一連のテストやハードトレーニングに耐えられないものは順次、振りおとす。

ナショナル・チームの一員になると、中央のトレーニングセンターで常時、練習できるようになる。ユ杯のような大試合の代表候補は、実に六ヵ月間、カンづめに近い徹底合宿でしぼり上げられる。

今回、ユーバー杯代表としてエントリーされた六人は、みな、日本になじみのある歴戦の持ち主ばかりだった。しかし、これはユーバー杯のような大試合では、技術以外の要素が勝敗のキイ・ポイントになるとの判断で、プラス・アルファーの多い選手、すなわち、ベテランに代表の座が渡ったものだ。

別記、日体大選手らとナショナル二軍（ジュニア）との親善試合と、記事内容が重複するかもしれないが、このナショナル二軍で出て来た一人、身長178センチ、19歳のベラワティなどはインドネシアがユ杯代表六人を決めるため、大会直前に行った選考試合で、代表になった選手全員に勝ったのだ、という。この、層の厚さ。

もちろん、一線級になれば、ソ連のスポーツマスターほどではなくとも、経済的な恩典がつくので、選手の励みも日本とはちがうだろう。しかし、そのほかにも、バドミントンは国技であることの自覚、したがって、自分は全国民から言動が注目されているとの自覚、その象徴としての愛国心、などが、選手に〝筋金〟を入れていることもまた、確かである。

ほんのちょっとしたことだがインドネシアは、コート外での面倒見もいい。日本との決勝の夜は、例のベラワティ以下の若手が全員、父兄とともにやってきて選手席のすぐうしろで観戦した。同じ見るのでも、切符を買ってスタンドに座るのと、先輩やライバルの表情、息づかい、ベンチのふん囲気までわかるところで見るのとでは、得るものがちがう。まして、父兄においておや、だ。

そればかりでない。優勝のあと、午前2時半ごろから、カルティカ・チャンドラ（日本の宿舎）で開かれた〝早朝のサヨナラ・パーティ〟にまで、これら若手が来ていた。国情が違うとはいえ、日本では、とても考えられぬことだった。

本稿は別冊「**ユーバー杯奪還への道**」のため後藤忠弘理事が執筆したものですが、同書のスペースの都合で本誌に収録いたしました。

バドミントン王国インドネシアの実情を知ることのできる非常に貴重・有益なリポートでありますので、じっくりお読みください。

特別寄稿＝夜明けの時代をふりかえって

わが国バドミントンの発祥と協会発足の回想

広田兼敏・日本バドミントン協会副会長

本稿は、現在日本バドミントン協会副会長・神奈川県バドミントン協会名誉会長である広田兼敏氏が、氏のバドミントンとの永年にわたるご経験から、日本のバドミントンの発祥のもようと、協会の発足について綴ったきわめて貴重な記録であります。戦前のわが国バドミントン界のようすを知るにあたって欠くことのできないものでもあります。

今月から数回にわたって連載してまいりますので、当時のようすについて資料・記録・写真等をお持ちの方がございましたら、誌上にて〝発表させていただきたいと思いますので、何卒編集部あて複写をとったうえでお送りください。

▼バドミントンの由来と発達史

バドミントン競技は新興スポーツではなく、相当の歴史をもっているが、わが国においては、昭和の初期ごろから主に、横浜、神戸等に在住の外人間において、領事館、横浜YC&AC（横浜カントリー・アスレチック・クラブ＝横浜外人スポーツクラブ）あるいは、神戸KRAC（神戸外人スポーツクラブ）、また当時バスケットボール、バレーボール等、最初にわが国に紹介した横浜YMCA（約五〇年間にわたって筆者が体育主事として在勤していた）が、レクリエーションゲームとしてシャトル（バーズ・羽根）を打ち合う程度で楽しまれていた。

そして、昭和七、八年頃からゲームとしての研究が行われ、真の競技化は私がデンマークより帰国後間もなくの昭和一二年の秋頃からのことである。

▼由来についての調査

デンマーク体育学校在校の際に友人のイギリス人（オックスフォード大学出身、デンマークにおいては筆者と同学年）や、ロンドン訪問の際にセントラルYMCA体育部において、バドミントンの由来について尋ねた。また、帰国の途中で同船したイギリスの一バドミントン・プレーヤー（ボンベイで下船）、あるいは戦後在日米軍第八軍体育課主任（横浜在住）ペリー少佐の好意により、各種のバドミントン参考書等を研究して正しく一致している点を次に記す。

『バドミントンはその昔インドにおいて発生し、最初はプーナと称されていた。インド・ボンベイ州のプーナ村において発祥、村の人によって行われていたので、その名を付したのであろう。

このゲームが英本国に伝わったのは一八四四年のことであって、当時、インドに派遣されていた英陸軍将校が英国に初めて紹介したのである。最初のプーナクラブは一八七三年に英国のバス町に創立された。その後間もな

く当時のビューフォード領主下のグロスターシャー（　　）県下のバドミントン村で、村の人々がこの新しいゲームに興味を持ち、これ以来このゲームの名を「バドミントン」と改称するようになったのである。このゲームにおいて使用された規則は、最初のプーナの規則に幾度も改正を加えたものであって、その後一八九五年に結成された、ナショナル・バドミントン・アソシエーション（NBA）により、今日の国際ルールが決定されたものである』

▼外人クラブと対戦

さて、わが国の発達の歴史を二、三記してみたい。

横浜YMCAならびに横浜YC&AC等が、昭和三、四年頃から練習を始めたが、時を同じくして、ナルト・スポーツが当時のジャワ（現在のインドネシア・当時は国技のように盛んであった）からの注文により、主にラケットを製造輸出しており、たまたま工員等が練習をしていた。

最初の協会は、すでに昭和一三年横浜YMCAを中心に、コロンビア、古河電線、ナルトの四団体により創設、理事長に筆者、各チームから一名ずつ代表理事、ならびにYMCAから三名の委員を選出、春・秋のリーグ戦、YMCAの招待による親睦試合、選手権大会、個人戦等が行われていた程度で、東京等には全くなかった。

昭和一四年に筆者は、関西の大阪（大阪YMCAは松葉体育主事）、ならびに神戸YMCA（石渡体育主事）に講習指導、バスケットならびにバレーボール同様、東西のYMCAを通じ、一般に指導・普及した。

当時、横浜YMCAは筆者を中心に猛練習を重ね、昭和一五年、シーズンに入り第一回のYC&ACとの初戦に善戦し、シングルスならびにダブルスともに全勝したが、この試合において初めて現在各選手が練習しているところの戦法を習得した。

つまり、ハイクリヤー、ドリブンクリヤー、ドライブ、ドロップショット、ヘアピンプレー、クロスコートヘアピンプレー、あるいはフェイントプレー、サービスの研究などがなされたのである。

バドミントン戦法は、この試合を期して一段と改革、一新されたのであるが、外人クラブとはいっそう親密を加え、毎週のように親善試合を行ったが、これにより、わが国のバドミントン正式技術が一段と一新され、進歩したことを特筆しておきたい。

なお、戦前は、横浜YMCAならびに大阪、神戸のYMCAと、横浜における数チームのみであったが、いずれも横浜YMCAのワンサイドゲームで終るので、前記YC&ACとの親善試合のみが、一段とすぐれていて両チームともに全力をあげて戦ったことは、わが国技術の向上に著しい発展の基礎となり、ひと昔前のなつかしい思い出でもある。

▼学生チーム待望の誕生

次に筆者は、スポーツの発展は（当時のわが国においては）学生が早道と考え、YMCAアパートに住みながら、日吉の慶応大学に通学していた数名の大学生の希望を受け入れてコーチを開始した。

今井氏（現日本協会理事）、兼松氏、国島氏（カリフォルニア大学卒、現在在米）、安井氏（当時のドイツ領事館員、ベルリン大学卒）、その他十数名の一般プレーヤーのほかに、前記慶大生、佐藤・山本・寿・仲地その他数名にきびしいコーチを行ったが、これが幸いをもたらし、YMCAの最強チームを編成することができた。

そして、さらにこれらの学生に刺激され、三田の慶大生の練習が始まったが、練習場がなく、筆者は当事東京YMCAの体育主事友人の柳田享氏（今はご他界）のご理解のもとに、初めて東京YMCAの体育館にあざやかに白線のバドミントンコートラインが引かれ、猛練習が開始された。これが東京における最初のバドミントンの起こりであった。

やがて、山本（主将）、佐藤（副将）、仲地、森友（現日本協会副会長）、森友（弟）、寿（帰満）、村上、花島、伊東、諸岡、本田、津川のほかに、さらに吹野、折田、六角（終戦後の慶大主将）、橋本、奥野の各氏らも加わり、戦前ではあるが、慶大に充実したバドミントンクラブが発足され（昭和一七年一〇月七日）、筆者のなによりの喜びと待望の夢が実現されたのである。

六角氏ならびに三橋、藤井両氏らが協力、いち早く学生連盟の創設に尽力、また、諸岡、仲地、森友氏らは現日本バドミントン協会の創設に力を貸して下さり、また内藤現理事は明大を通し、また関大卒の二、三名、立教大を通し、ともにご協力下さった方々があることを明記しておきたい。

（以下次号）

堀川 気をはく

男子は招待の今泉

五十年度新潟県総合選手権大会は三月二十八日新潟市体育館で開催された。今年から新潟日報社が共催となり、男女単優勝者に新潟日報杯が授与された。

また、今年から、県外のトッププレーヤーを招待、レベルアップを計ることになり、男子が今泉勉、河村博之両選手（ともに高岡市役所）、女子は大塚ソノエ、関根和子両選手（ともに日体大＝新潟青陵高出）が参加した。

男女複は招待選手組が圧勝したが、単では地元勢も健闘し、男子は鈴木（三条協）があと一歩およばず今泉に惜敗したが、女子は堀川（青陵高教）が大塚・関根両選手を下し優勝した。

▽男子ダブルス準々決勝

今泉・河村 2―0 野村・高橋（高岡市役所）（長岡協）

芦田・坂井 2―0 橋崎・小日山（三条あせの会）（三条協）

丸山・鈴木 2―0 深沢・七里（三条協）（三条商）

捧・鈴木 2―0 長谷川・川口（三条協）（菖羽会）

▽同準決勝

今泉河村	2	15―3	15―4	0	坂井芦田
捧鈴木	2	15―0	15―6	0	鈴木丸山

▽同三位決定戦

丸山鈴木	2	15―0	15―0	0	坂井芦田

▽同決勝

今泉河村	2	15―5	15―9	0	鈴木捧

▽女子同準々決勝

関根・大塚 2―0 池田・落田（日体大）（新潟ク）

市村・見田 2―0 木伏・榊原（中央高）（NTN）

青木・藤井 2―0 高野・斎藤（青陵高）（青陵高）

堀川・星田 2―0 海老・水品（青陵高教新相銀）（NTN）

▽同準決勝

関根大塚	2	15―1	15―2	0	見田市村
堀川星田	2	15―5	15―8	0	藤井青木
青木藤井	2	15―11	15―10	0	見田市村

▽同三位決定戦

関根大塚	2	11―3	11―0	0	星田
堀川	2	5―11	11―8	1	大塚
堀川	2	11―6	11―5	0	関根

▽同決勝

大塚	2	11―2	11―3	0	星田

▽同準決勝

今泉	2	15―7	15―10	0	丸山
鈴木	2	15―1	15―1	0	阿部

▽同三位決定戦

丸山	2	15―2	15―6	0	阿部

▽同決勝

今泉	2	15―10	11―15	1	鈴木
		15―12	11―15		

▽女子シングルス準々決勝

関根 2―0 青木（日体大）（青陵高）

星田 2―0 市村（新相銀）（中央高）

堀川 2―0 水品（青陵高教）（NTN）

大塚 2―0 藤井（日体大）（青陵高）

▽同準決勝

関根	2	11―3	11―0	0	星田
堀川	2	5―11	11―8	1	大塚
堀川	2	11―6	11―5	0	関根

▽同決勝

大塚	2	11―2	11―3	0	星田

▽同三位決定戦

関根	2	11―3	11―0	0	星田
堀川	2	5―11	11―8	1	大塚
堀川	2	11―6	11―5	0	関根

▽同決勝

大塚	2	11―2	11―3	0	星田

▽同準決勝

今泉	2	15―7	15―10	0	丸山
鈴木	2	15―1	15―1	0	阿部

▽同三位決定戦

丸山	2	15―2	15―6	0	阿部

▽同決勝

今泉	2	15―10	11―15	1	鈴木
		15―12	11―15		

▽女子シングルス準々決勝

関根 2―0 青木（日体大）（青陵高）

星田 2―0 市村（新相銀）（中央高）

堀川 2―0 水品（青陵高教）（NTN）

大塚 2―0 藤井（日体大）（青陵高）

▽同準決勝

関根大塚	2	15―4	17―16	0	堀川星田

▽男子シングルス準々決勝

今泉 2―0 捧（高岡市役所）（三条協）

丸山 2―0 本間（三条協）（新潟ク）

鈴木 2―0 本間（三条協）（青山ク）

阿部 2―1 明間（新潟ク）（汗の会）

▽同準決勝

今泉	2	15―7	15―10	0	丸山
鈴木	2	15―1	15―1	0	阿部

▽同三位決定戦

丸山	2	15―2	15―6	0	阿部

▽同決勝

今泉	2	15―10	11―15	1	鈴木
		15―12	11―15		

模範試合と実技講習会

＝指導部＝

全日本チャンピオンによる模範試合と実技講習会が、二月二十二日三条市で開催された。

年々低下の一途をたどっているレベルの向上を計るため、栂野尾悦子（旧性竹中）飯野佳孝ら日本を代表するプレーヤーを招き、国内最高の技術を披露してもらう一方、県内各地から集まった三百名の選手に実技指導を受けた。

また、これに先だち、二十一日には、大西新潟市トレーニングセンター室長、栂野尾昌一トマス杯代表を講師に迎え、指導者講習会が開かれた。



●新潟●

NKKが辛勝

●広島●

第7回広島県バドミントン総合（団体）選手権大会は2月29日、広島県立体育館にて行なわれたが、結果は次のとおり。

▼男子団体

▽準々決勝

NHK3―0広大C、広大B3―0修大A、日立3―0広島クラブ、三菱3―1日本精鋼

▽準決勝

NKK3―1広大B、日立3―0三菱

▽決勝

NKK3―2日立

▼女子団体

▽準々決勝

第一女商高A3―1広大I、広大H3―0修大A、広大G3―0鈴ヶ峰大、第一女商高B3―1修大B

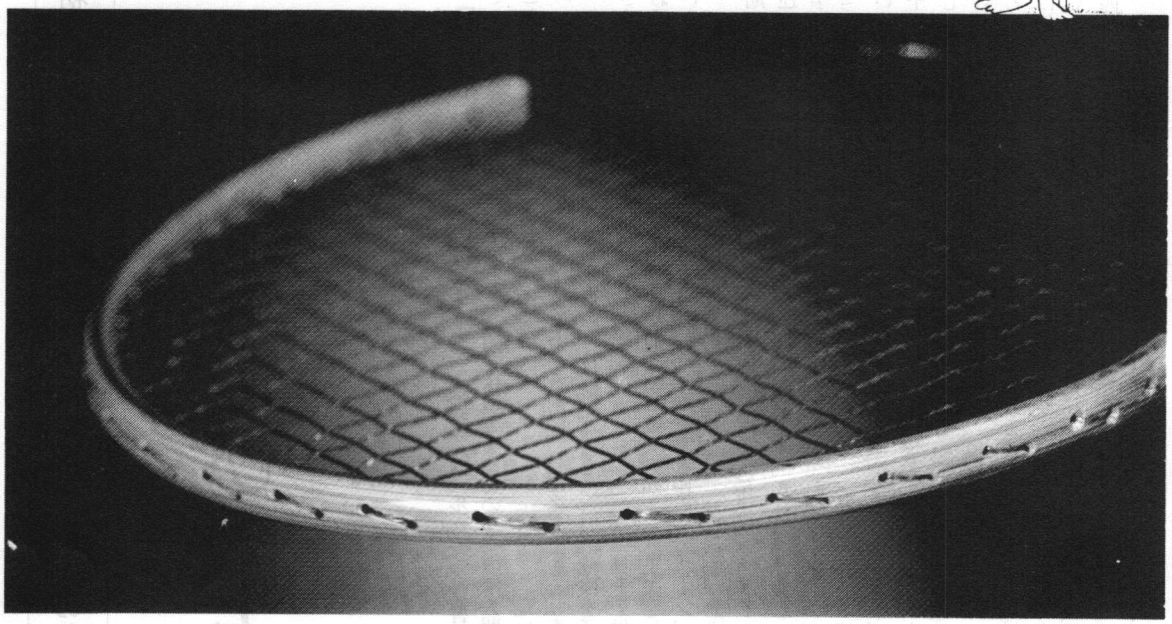
▽準決勝

第一女商高A3―2広大H、第一女商高B3―2広大G

▽決勝

第一女商高B3―1同高A

竹の特性を生かした話題のバンブーラケット!!



竹製なればこそ発揮できる威力がバドミントンのプレーに適した材質の特性であることに着目して、その研究成果を集積、ここに今話題のバンブーラケット〈ハイ・トーマス〉が誕生しました。

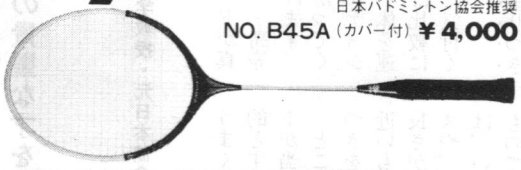
■竹と木の合板による強靭なフレームと細くて長いテーパーシャフトによる抜群の反撥力と反撥音。■薄いフレームに竹独特の強さとしなりがシャープな振りと動きを可能にします。■ガット張りによるラケットの変形が起らない。■ソフトグリップが手に良くなじみます。

バドミントンラケット〈ハイ・トーマス〉

Hy-Thomas

日本バドミントン協会推奨

NO. B45A（カバー付）¥4,000



株式会社 ゴーセン

本　　社・大阪市東区畳屋町4　TEL. (06) 942-5816 代
東京支店・東京都台東区蔵前4-14-2 TEL. (03) 862-6576 代
福岡営業所・福岡市中央区薬院1-4-8 TEL. (092) 712-5247～8

理想のガット〈ウインテックス〉!!

Wintex Racket String

TOURNAMENT GAUGE
1.35mm for TENNIS, 0.73mm for BADMINTON



弾力性・耐久性バツグンのステンレススチールワイヤー巻きの高級ガットです。

すばやい動きがいつもフレッシュ!!

Wintex WEAR



●カタログは、最寄の有名スポーツ用品店又は、(株)コーセンスポーツ用品部迄お問合せ下さい。

◆新連載◆お母さんや子供のバドミントンのためのシリーズ・第三回

ラケット遊びの方法

――〝勇み足〟をしないように子供の貴重な才を伸ばす

伊藤基記――熊本女子大学教授・元日本協会指導委員長

私は第一回、二回とこの紙上で、バドミントンの魅力の一端を述べることと関連して、幼少の頃からの「種を蒔き、苗を育てる世界」のことをくどいほど、強調してきました。もう沢山の方々が、お子様相手におはじめになっていることと思います。

今回は、「種をまく世界」として幼年期の「ラケット遊び」について述べます。

私の大学におけるライフワークは実は「乳幼児の運動能力の発達」ということでした。

この三十年近く、多くの乳幼児を観察してきましたが、その素晴らしい発育、細胞分裂の倍率におどろくばかりです。

赤ん坊に何ができるかなどとたかをくくってはいけません。

生れて四ヶ月たてば体重は二倍になり、四年たてば身長も二倍になります。一年たてば「歩く」という高等技術をやってのけるのです。

小学校にあがる前に、見事にむつかしい「投球動作」をやってのけるのです。

小学校に通う頃には大人顔まけのキャッチボールをする坊やが出現します。

適当な環境をつくれば、五、六歳児は人間のもつ基本的な運動をほとんど全部こなしてしまいます。

記録を追う青少年の華やかさはまだありませんが、運動の内容はまことに豊富なものです。

この運動群の中に「道具を使う」「手のさきに何かをもってそれで物を扱う、何か作業をすること」に乳幼児達が、あくことのない意欲を示すのをごらん下さい。

「道具を使う」ことができるのは人間だけです。

「危い」「よごれる」と道具をとりあげる前に、可能な限り、危険を予防しながらも存分に道具を子供なりに扱う……そんな工夫をしてみて下さい。箸、スプーン、棒の類、ナイフ、ハサミ、金槌、スコップｅｔｃ……。

ボール遊び……初歩的な「受け渡し」「転がし合い」にピンポンのバットのたぐいをプラスしてみて下さい。柄の短かいラケット、三、四歳になれば、バドミントンのラケットOK……この道具で、まりの転がし合いをやってみて下さい。部屋の中でも庭さきでも、転がし合いならすぐできます。

子供達はすぐに「ラケットの長さ」を覚えます。大人の何倍もはやいスピードで、体をはすに構えて、ラケットヘッドが真直に相手の方向に走る……高等技術を難なくやってのけます。

まりが、どこにころがってくる……という予見（アンティシペーション）に従って、体を運ぶ順応の度合も大人とは比較にならぬほどはやいことに気付くでしょう。

やがて、ラケットでまりつきができるようになります。それができれば、ラケットで球や、シャトルを、上方につづけてつけるようになるのに、時間はかからないはずです。

因数分解のできない者に方程式はとけません。

相手が青年であろうと、大人であろうと、ラケットを握って、すぐにバードの打ち合いができるはずがありません。ラケットの長さを味得していなければ、うまく当るはずもなければ、目的とする方向にラケット、ヘッドが当るはずもありません。

ところが、転がし合い、まりつきをラケット（またはそれに近いもの）で楽しんで、道具の長さがわかっておれば、サービスや、それにつづく、打ち合いは、いとも簡単にやってのけるものです。歩くという、全く複雑な運動を生後一年前後でやってのける子供にとって、ラケットでまりやバードをうつということは、そんなにむつかしいことではありません。要は「ラケットの長さになれる道順」をふませることです。しかも、この道順を子供達は少しも面倒がりません。いやそれどころか、全く楽しくてしようがないお遊びなのです。

この遊びの間に先述したラケ

ットの長さを覚えることはもちろん、球やバードと体との距離、スイングに応ずる体全体の協力（各間接のはたらきによって、体の各部がうまく捻転されて力がまとまることや、バランスをたもつこと）という、大人になってからでは、何年もかかることを、わずかの日数で、頭でなく、体で（感覚で）覚えてしまうのです。力がありませんから、よい音がしたり、高く遠くということはありませんし、全く地味な外観ですし、相手をするものにとっては退屈なことにもなりかねませんので、一般の方々は、乳幼児のために、あえてこの機会、こういう「場」を積極的につくろうとはしません。

相手をするのがわずらわしければ、せめて、道具だけでも、子供のおもちゃの仲間いりをさせて、身近かなところにおいてやることです。子供は本能力に動くもの、弾むもの、道具でものを押したり、たいたり、打ちやることをこのむものですから、大人が気付かないうちに、この貴重な感覚が芽ばえていることも多いわけです。



ラケットの長さになれさせよう

さてここで注意をしていただきたいのは、それ球だ、それラケットだ、それバードだ、持ち方はこうだ、振り方はこんなにと、子供を攻めつけないで下さい。植物の芽に、肥料をぶつかけて、引っ張り伸ばすようなことはさけて下さい。熱心だ、関心が深いなどといわれる親ごさん方の中には、往々にして、この「勇み足」の愚をおかしてしまいがちです。なるべく、子供の自然な遊びとして、「放し飼い」的にもってゆくことが秘訣です。間違っても「押しつけ」にならないように「子供自らの細胞分裂」はどんなに尊重しても尊重しすぎることはありません。「見つめる鍋はたぎらない」のたとえの通り、あまり子供を見つめて、干渉しますと、逆効果になりますので要注意です。

それから、子供達は大変に「移り気」であることも計算にいれておいて下さい。

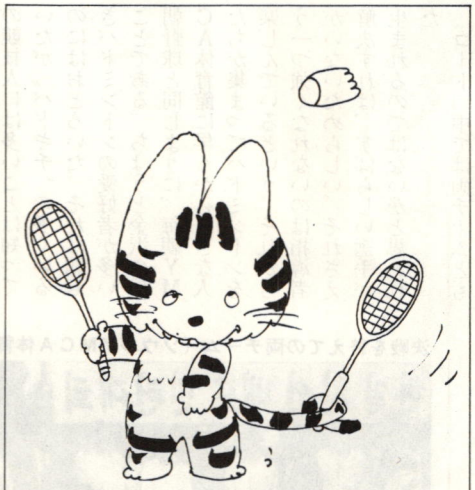
「あらもう、やめるの」などと、追いつめないように。一つのことにじっくり取りくんで頑張るということは、少年期以後のしかも、一時的になりやすい現象であって、幼児には「気がむいたら」の程度でよろしく。

子供が道具におっかけられるのでなくて、子供が道具を追いかけるのがよろしい。

ラケット遊びも、乳幼児の頃今ラケットを振り回していると思ったら、もう何か外のことをしている……、二、三日せがんだかと思えば、あと、何日も忘れている……というように、間歇的に、しかも甚だ不規則に、気まぐれ的に訪れることが多いのです。それでよいのです。

本当に「楽しんで」いたのであれば、必ず再現します。

チャンスがあれば……幼児の頃にラケット遊びをしていて、小学校時代に、何かの時に、バードを打たしてもらったら、案外うまく当った（当るはずですす幼児の頃のホンのちょっとした遊びの中でも、長さを覚えていたのですから）、しばらくやみつきになって……また断絶したように見えたが、入学した高校でバドミントン部があったので、入部した……もともと素地があって……たちまち頭角をあらわしたというケースは多いのです。



押しつけはいけません

だから、ラケット遊びばかりを……というよりも、むしろ外の遊びをとびまわり、浮気をしながら、時々、まいもどる……そのたびに程度があがっている……綜合的な体力づくり（子供達にとっては総てが遊び）の中に、むつかしい言葉ですが「止揚」されてゆくのが理想の姿ということができます。

チョット使ったら、すぐ放りだしてしまう、もったいない、躾の上から好ましくない……などと力まないで、しばらく、袋にいれて、しまっておいて下さい。まいた種は必ず、芽をだします。チャンスを見て、袋からとりだし、相手になってみて下さい。乳幼児、少年達の素晴らしい「細胞分裂」を信することです。私は、体育指導者としての四十年の歳月をふりかえってみて、この信念こそが私を支えてきた、それは間違っていなかったと、六十の坂を越して、つくづく思っています。

ベテラン三宅単複制す

女子は若手頑張り石田が独占

●岡山●

第19回岡山県会長杯争奪春季バドミントン選手権大会（一般の部）は、4月18日、25日の両日岡山大学清水記念館で行われたが、男子はベテランが活躍し、シングルスで三宅勝が6年ぶり2回目の優勝をとげ、ダブルスでも三宅が柳本堯敏と組んで5年ぶり5回目の優勝をはたした。

一方、女子は若手が頑張り、日女体大OGの石田雅子が単複に好プレーを展開し、みごとに優勝した。石田はシングルスは2年連続の2回目、ダブルスは初優勝。

◆男子ダブルス

▽準決勝

上野・芳上（三井）15－3、15－8片山・田中（岡山OB）、三宅・柳本（教員ク）15－11、15－7諏訪・門屋（岡大）

▽決勝

三宅 柳本 2（18－15、10－15、15－10、17－1）1 上野 芳上

◆女子ダブルス

▽準決勝

林・東（岡大）15－1、15－0難波・灘波（川鉄）、石田・林（県教委・山陽教）15－4、15－2日原・林（山陽短大）

▽決勝

石田 林 2（15－3、15－4）0 林 東

◆男子シングルス

▽準決勝

芳上（三井）2（18－13、10－15、15－7）1 名智（岡大）

三宅（教員ク）2（15－0、15－0）0 小田（教員ク）

▽決勝

三宅 2（15－4、15－2）0 芳上

◆女子シングルス

▽準決勝

石田（県教委）2－0 林（岡大）

林（山陽教）2（11－2、11－2）0 与倉（県短大）

▽決勝

石田 2（11－8、11－6）0 林

日韓の友好を深める

中島理事長の訪問記

●石川●

バドミントンの全石川はさる三月に韓国を訪問し、ナショナルチームの全韓国と対戦、4－3で勝ち初の海外遠征をものにした。この親善試合は「バドミントンを通じて友好を深めるとともに、技術の交流をはかろう」と韓国バドミントン協会からの申し入れで実現したもので大いに成果をあげた。以下は選手団長、中島寿福県バドミントン協会理事長の韓国訪問記。

遠いと思っていた日本海の向こうの韓国は意外と近かった。大阪から飛行機でわずか一時間四十分の旅でソウル金浦空港に着いた。

韓国バドミントン協会は、昨年十二月に東京でのトマス杯アジアゾーン2回戦で日本に9－0と完敗したため「役員が総辞職した」と聞いていたので入国手続などで心配されたが、曹副会長や韓総務理事らが出迎えておりスムーズだった。役員総辞職の割には－と思ったが、協会長は朴大統領の片腕と言われる韓決申検事総長であり、国自体が強化にかなり力を入れている事がわかった。事実、選手たちのプレーに対する意気込みは大変なものだった。

対戦した韓国ナショナルチームは、プレーそのものが荒く、技術的には今一歩の感はあったが〝日本に一歩でも近づこう〟ということからまじめなプレー、パワーにあふれたゲーム運びなど気力の充実が十分感じられた。これはトップクラスの選手だけではないようだ報もともと韓国の競技人口は多いことは知っていたが〝バドキチ〟の多くいるのにはおどろいた。それは朝起きバドミントンの愛好者が多いことである。ちょうど金沢の早朝野球と同じように、毎朝YMCA体育館に早くから好きな人たちが集まってバドミントンを楽しんでいるという。それがもう一つ強くなれないのは指導者がいないためらしい。それさえ解決すれば、すばらしい選手が生まれるのではないかと思われた。

コートの中では両チームとも激しい闘志を見せたが、ゲームが終わると石川県選手団は韓国ベンチを訪れ、日本製ラケットをプレゼントしたり、情報を交換するなど、互いになごやかなムードだった。また、韓国協会の歓迎会では郷土色豊かな民族衣装での踊りや歌、さらに役員一人々々がかくし芸を披露した。四十歳以上の人は日本語が巧みだが、香林坊ブルースがとび出したのにはびっくりさせられた。

石川県バドミントン界としては初めて韓国を親善訪問したが、両協会の役員、選手の交換は終始友好的であり、日韓親善の第一目的が果たせたものと思っている。

決戦を終えての両チーム（ソウルYMCA体育館で）



●'72'73'75全英ダブルスチャンピオン
●全日本ダブルス優勝5回



いま、相沢マチ子とヨネックスと。

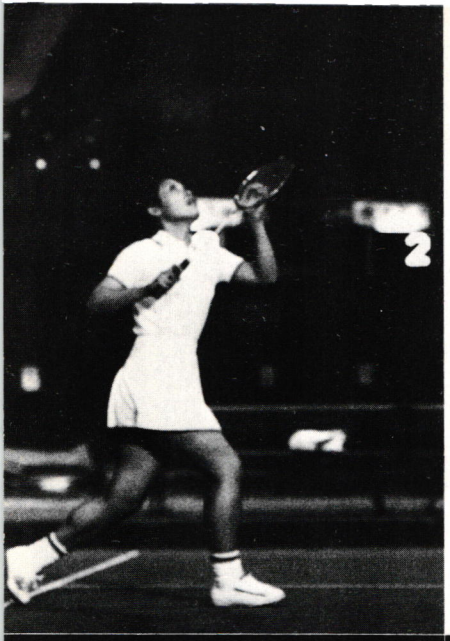
なんどもなんども、世界のチャンピオンシップを日本にはこんでくれたプレイヤー。バドミントンをする人ならかならず、しない人でもきっと知っているこの名前と顔相沢マチ子。彼女は、ヨネックスのスタッフです。世界のコートで勝ちぬいてきたその技を生かし、ラケット作りをはじめとするあらゆる分野で、活躍しているのです。世界のトップブランド・ヨネックスにふさわしい彼女の活躍。また世界に、なにかが起りそう。そしてあなたにも。

B-8100 BLACKEN

●ブラッキー……¥5,500(フレーム)ケース付

YONEX

目で見る技術講座＝湯木・徳田両選手に学ぶ



①ハイクリヤー（徳田）

昨年の第7回ユーバー杯大会に起用されてから、メキメキ頭角をあらわしてきた徳田敦子選手（サントリー）。

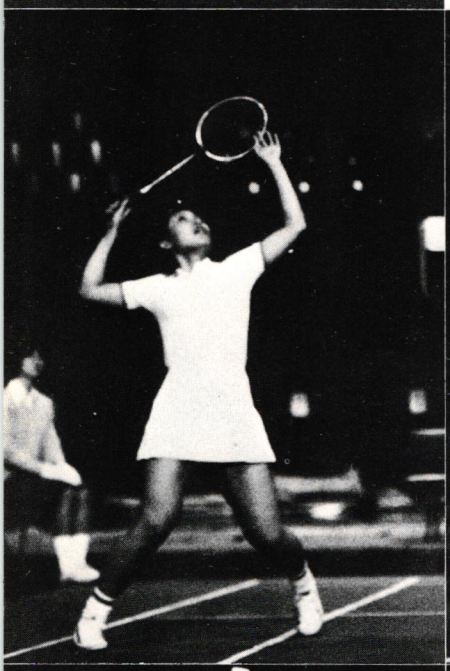
力強いストロークはポスト湯木のナンバーワン。

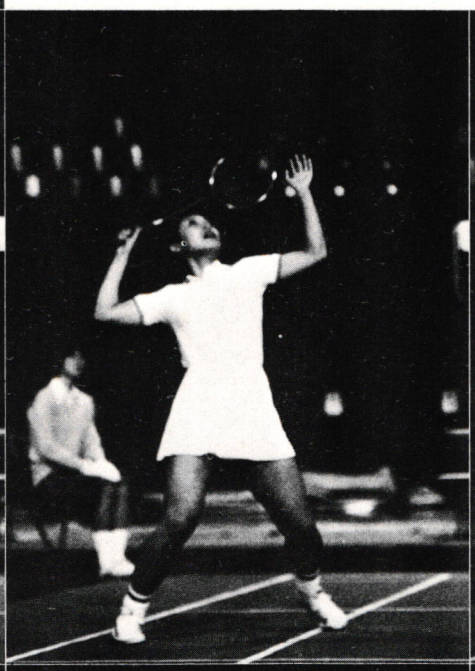
欠点といわれていたペタ足のフットワークとバックハンドの弱点は着実に改善されてきており、今後がますます楽しみである。

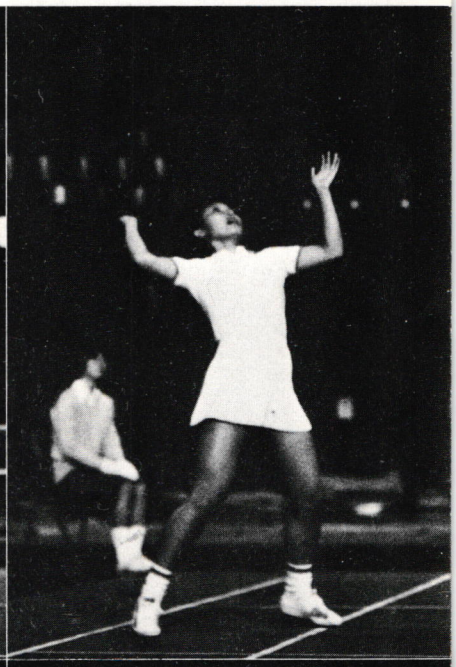
ファイトを外にあらわすタイプだけに調子の波に乗ると力で押しまくり、相手を寄せつけないものがある。その反面ひとたび歯車が狂うと連続ポイントを失うことがある。技術とともに精神面での充実も待たれる。

これはシャトルの落下点にすばやくはいったときのクリヤー。

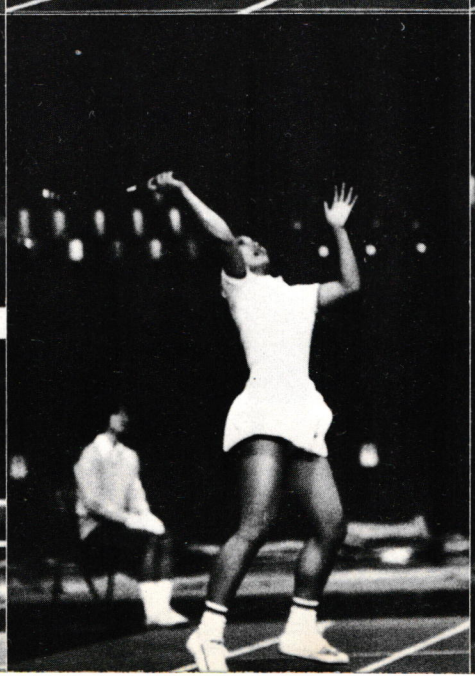
④	③	②	①		
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑯	⑮	⑭	⑬	⑫	⑪

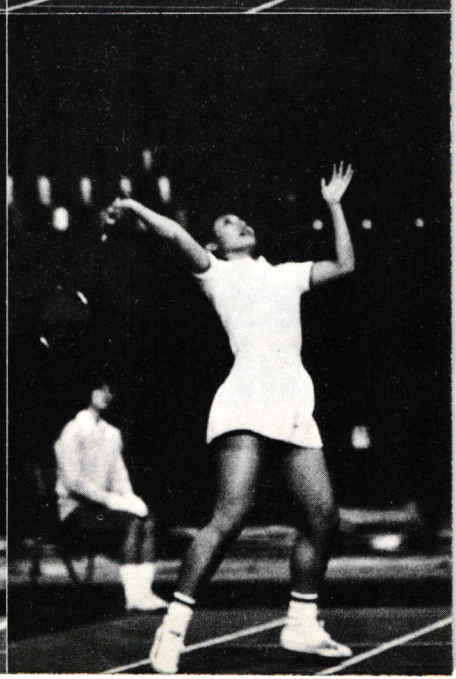
















②サイドハンドからのドライブ

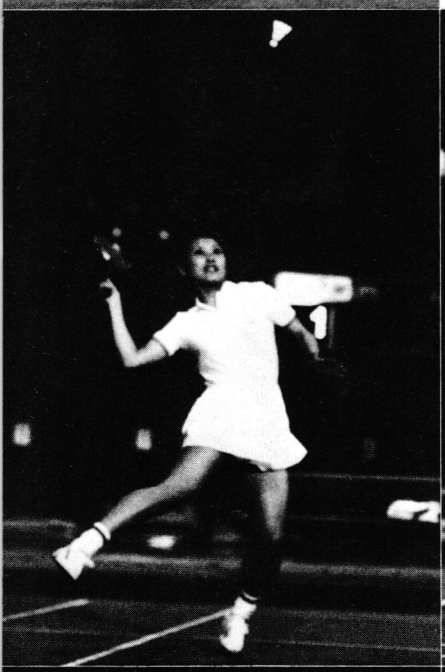
徳田選手はパワーがあるために、多少コートの奥に追い込まれても、一気に態勢を立て直すような反撃のできるタイプである。

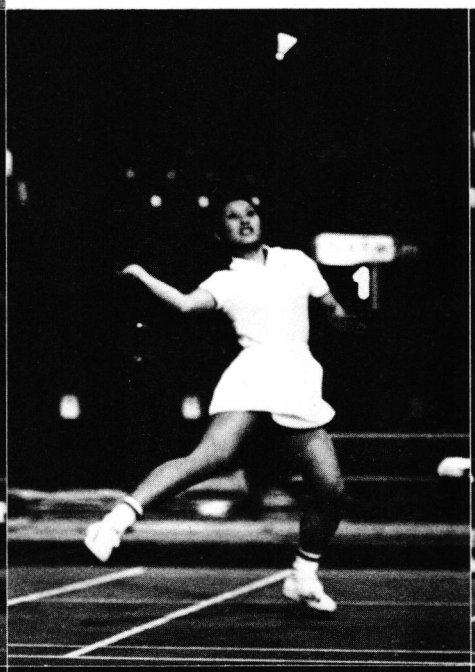
このドライブもそういった感じの強いもの。シャトルに対する視線、足の運びからみて、ハイクリヤーでコート深く押し込められたものだが、スリークォーター気味のサイドハンドから強烈なドライブを返球している。

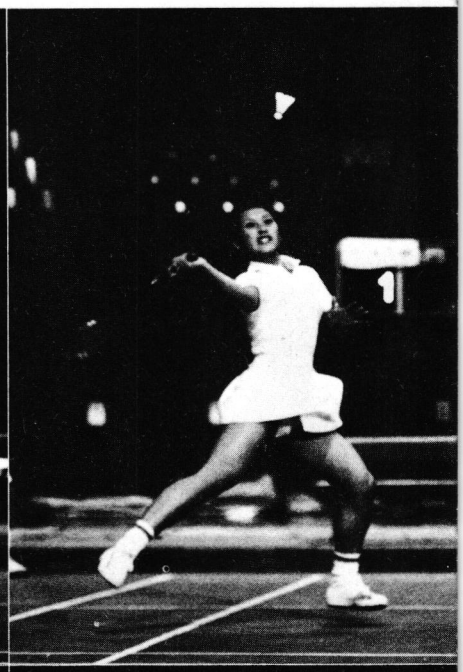
ドライブは別名ストレートなどとも呼ばれていることからもわかるように、ネットすれすれの高さを速いスピードで越し、相手のコート深く、あるいはボディアタックなどに有効なショットである。

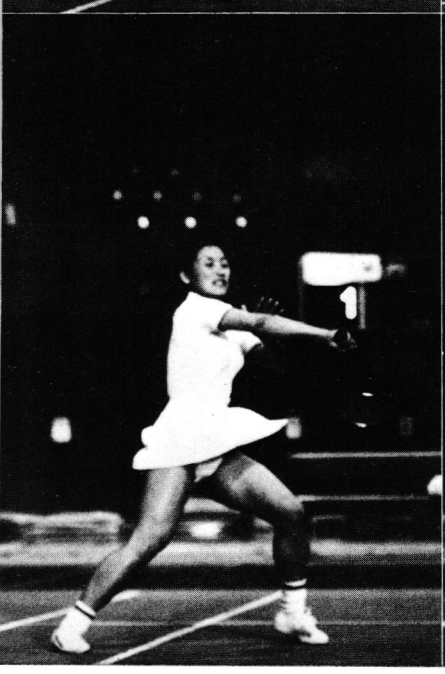
とくにダブルスではきわめて多く用いられ、このストロークの良否によってダブルスの勝敗は大きく変わってくる。

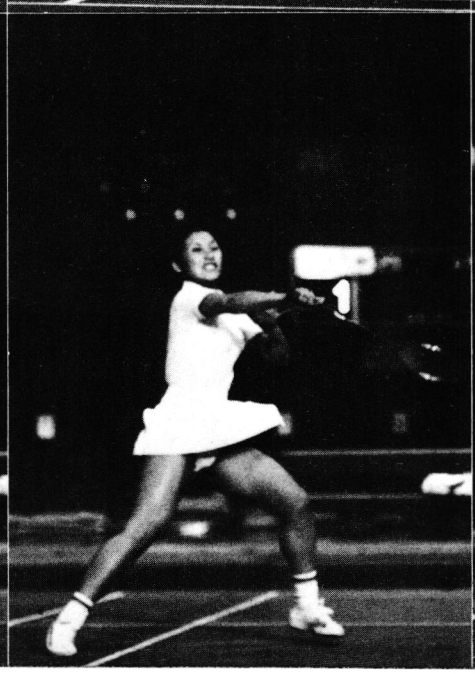
④	③	②	①		
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑯	⑮	⑭	⑬	⑫	⑪

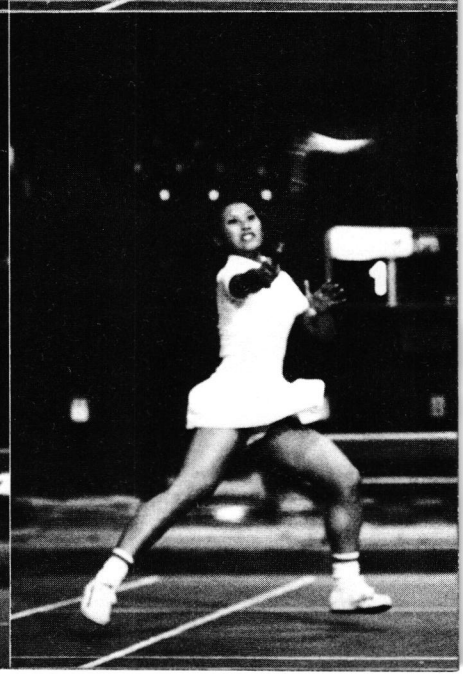




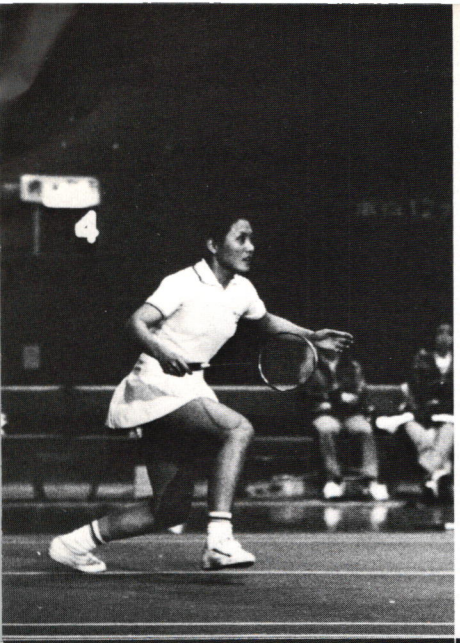












③ドロップショットをネットぎわへ返す

④	③	②	①		
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑯	⑮	⑭	⑬	⑫	⑪

徳田選手は、やや体の固さ（身のこなしだけでなく、フットワークにもみられる）があるため、バックハンドで打たなければならないようなクリヤーやドライブで深く攻められ、ようやく返したところをフォアの前に落とされると、かなり苦しいようである。

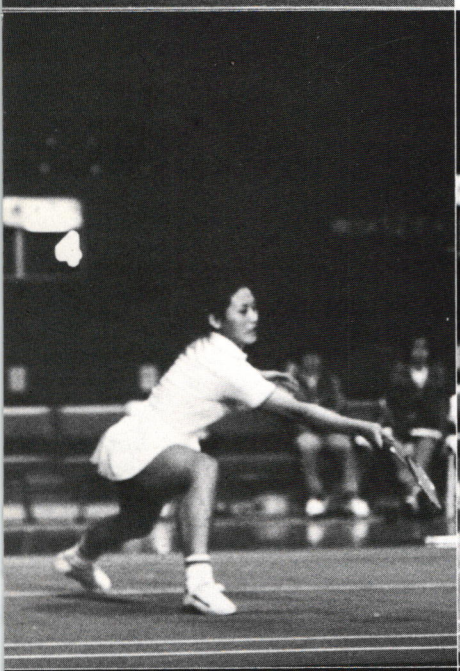
これは、そのフォアの前へ来たドロップショットのリターンである。

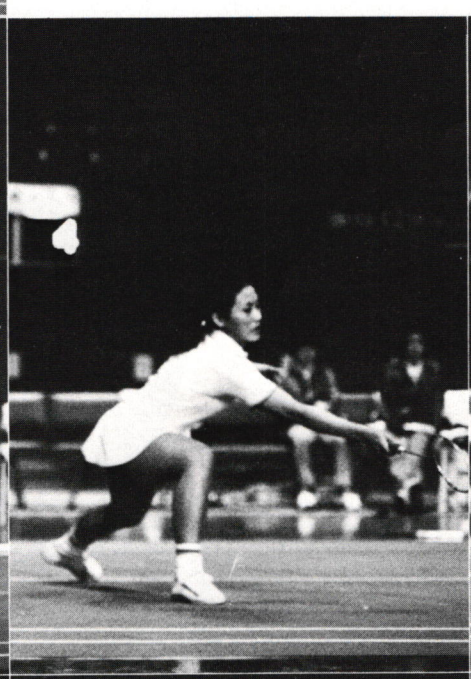
大きく足を踏みだしてシャトルに向かうところは迫力十分。

しかし、力をうまく抜いてヘアピンを返している。

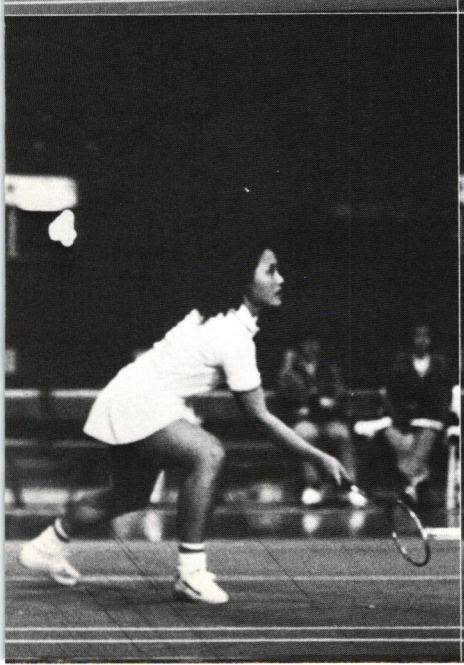
欲をいえば、もう少し高い位置でとらえて、クロスに相手をゆさぶるなり、ヘアピンとみせかけてプッシュすることができるようにしてほしい。

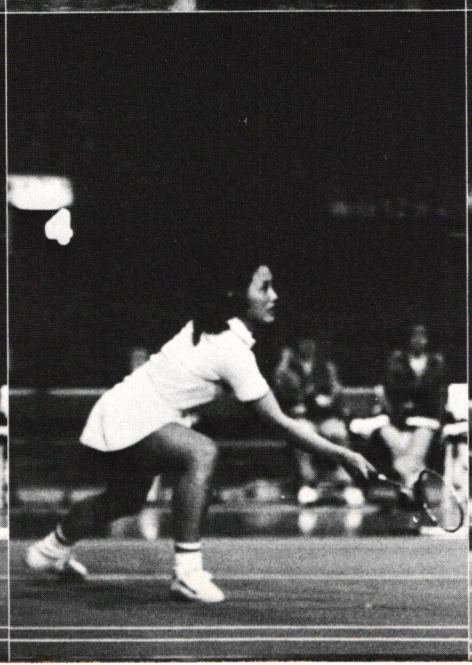
この写真でみる限りでは打点が低すぎて、相手に球すじを読まれてしまうであろう。

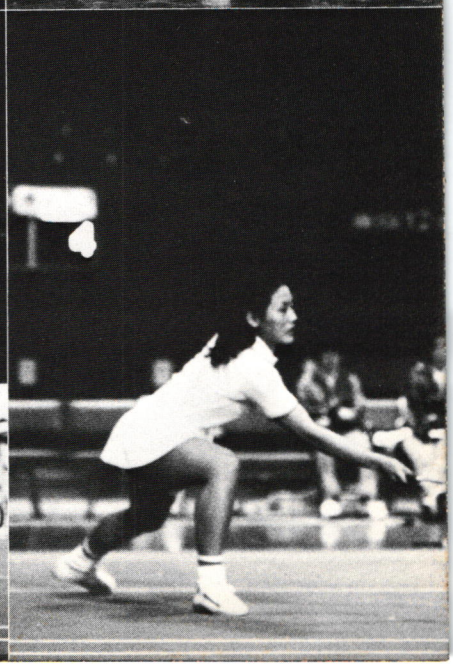


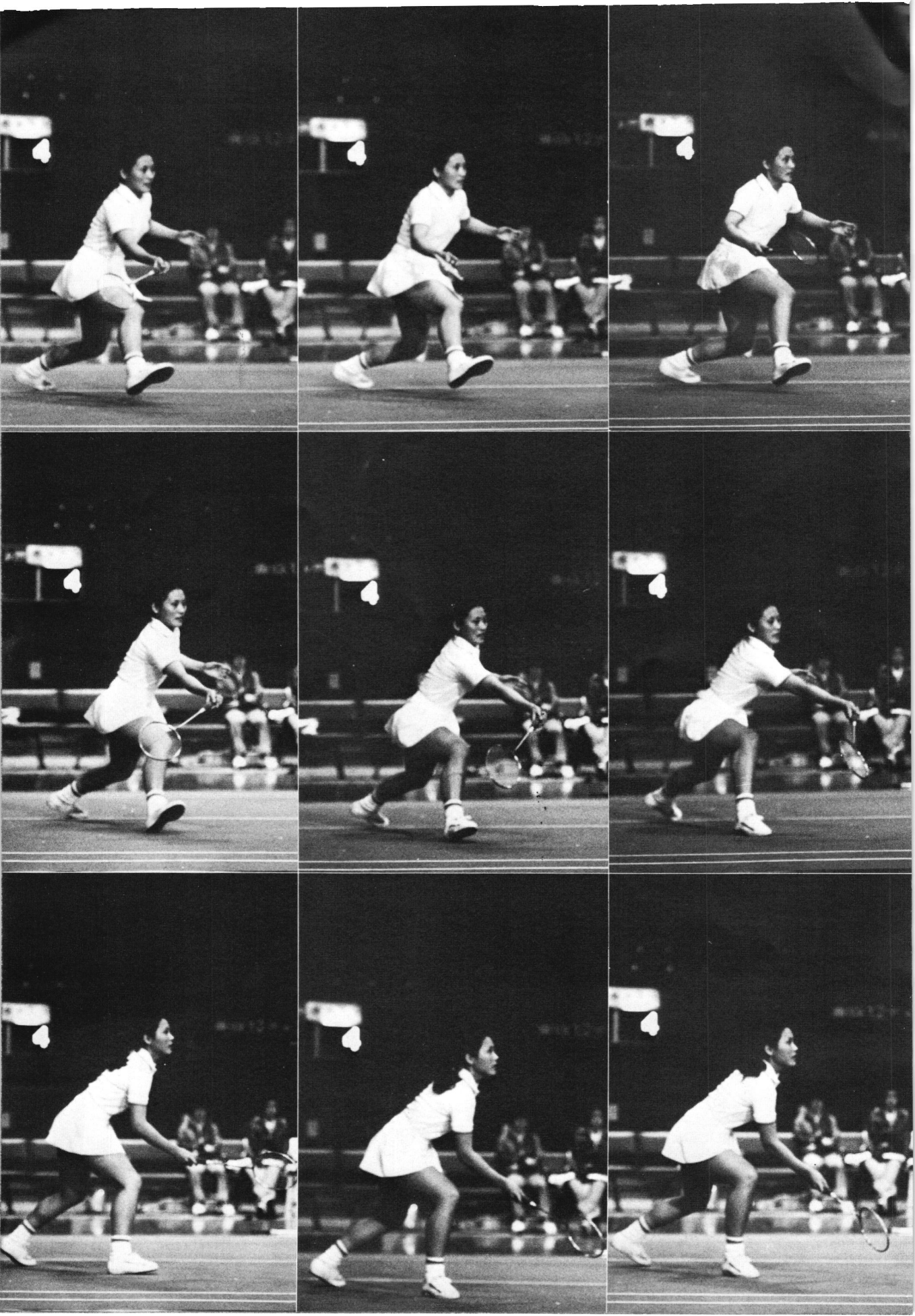


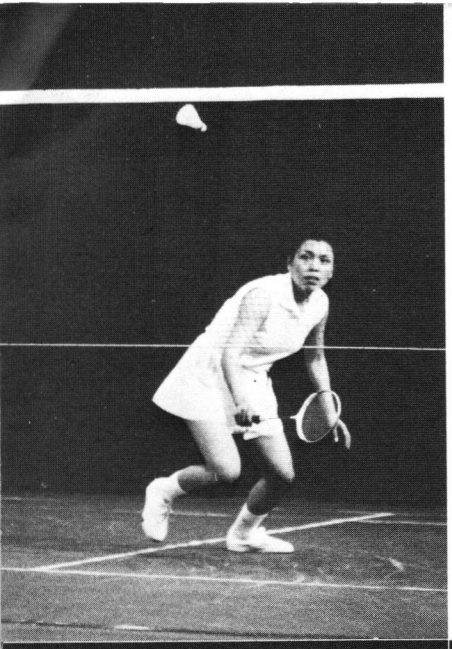












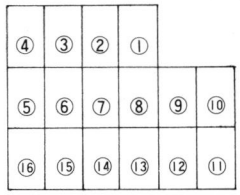
④ドロップショットの返球と次のそなえ

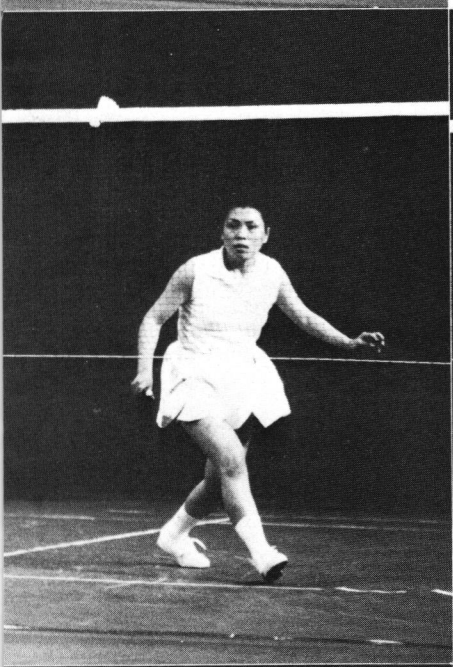
今度はなめ前方からとらえた湯木博恵選手（河崎ラケット）のドロップショットのレシーブ。

前ページの徳田選手に比べるとやはり足の運びがスムースで、上下動の少ないものになっているのはさすがというべきである。

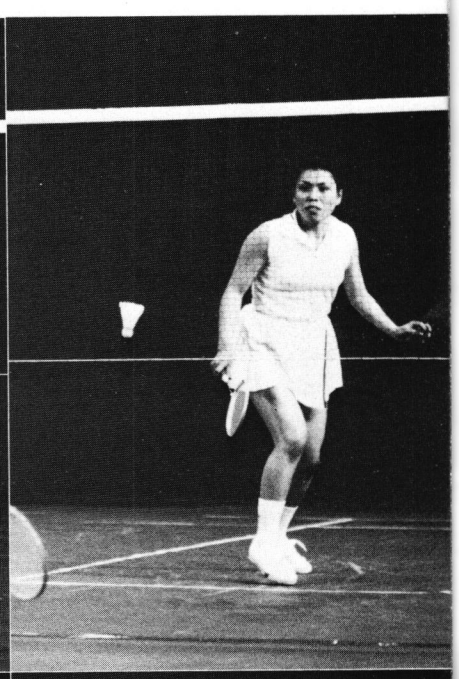
シャトルにまっすぐ足を出し、しかもヒザには余裕をもたせ、次の態勢への移行を楽にしている。ここでヒザが突っ張ってしまうと、次への移行がむずかしくなってしまう。

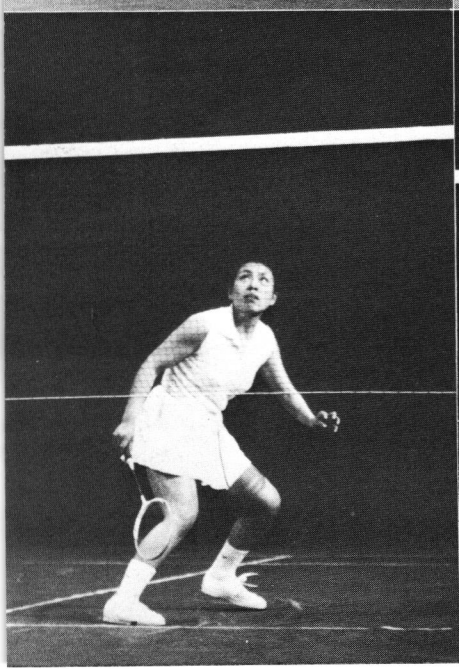
ラケットでシャトルをとらえた瞬間の絵がないのが残念だが、軽くスナップをきかせてヘアピンを返し、相手がそれをクリヤー（ロビング）で逃げてくるのをみて、すばやく後方へ足を運んでいる。打ったら打ちっぱなしではなく、常に先ざきを考えていなくてはいけないのである。

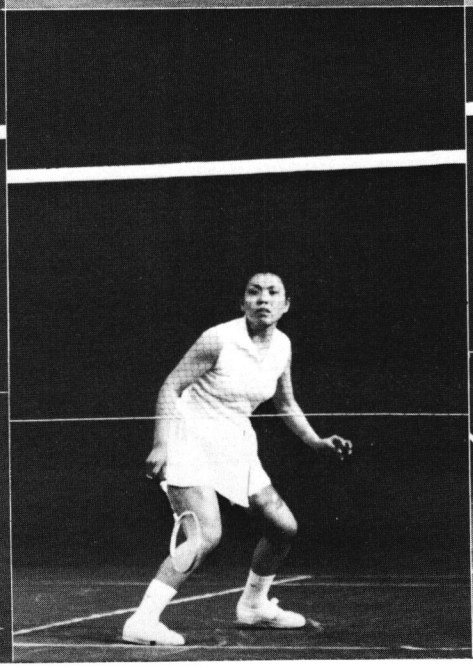


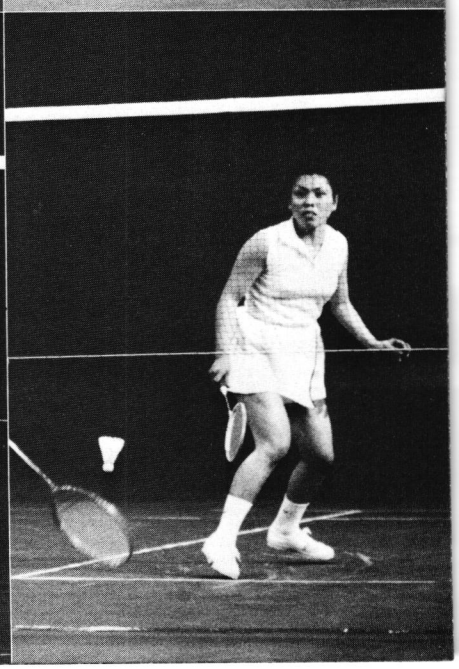


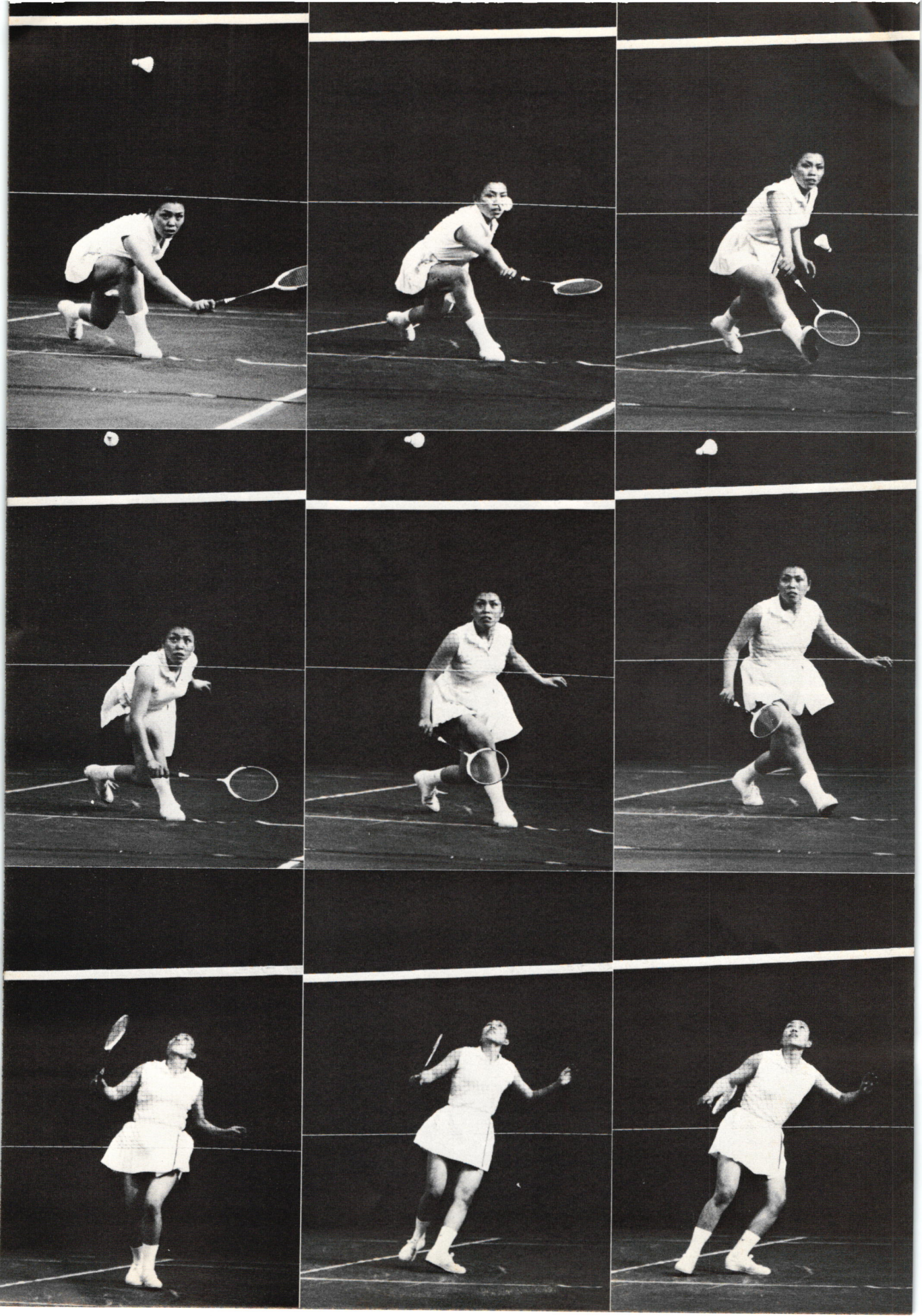












⑤ハイバックからホームポジションへ，そしてもう1度ハイバック

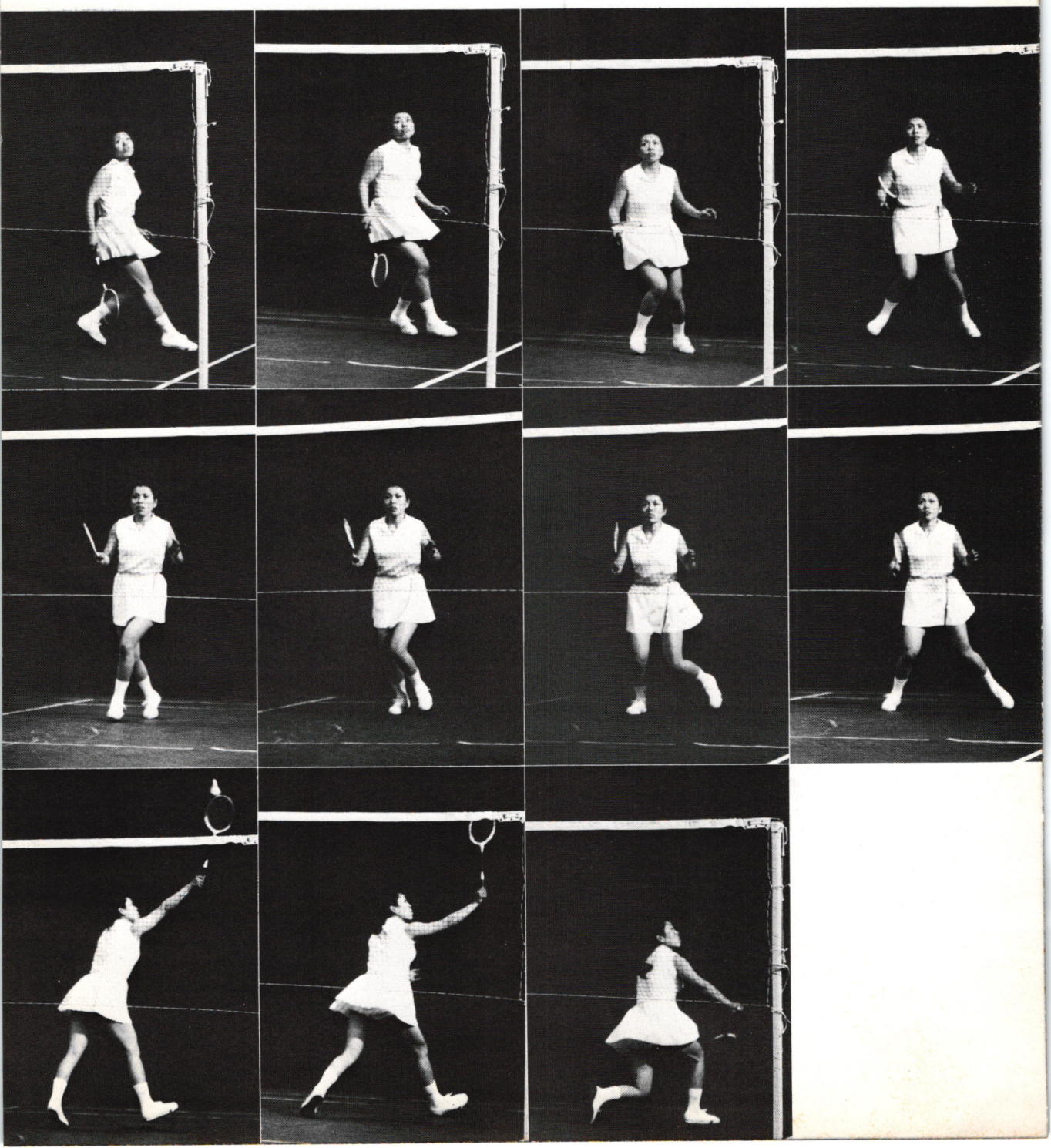
湯木選手のバックハンドストロークは、その力強さと安定感で定評のあるところだが、とくにハイバックによるクリヤーや、バックスマッシュには、男子選手顔負けのものをもっている。

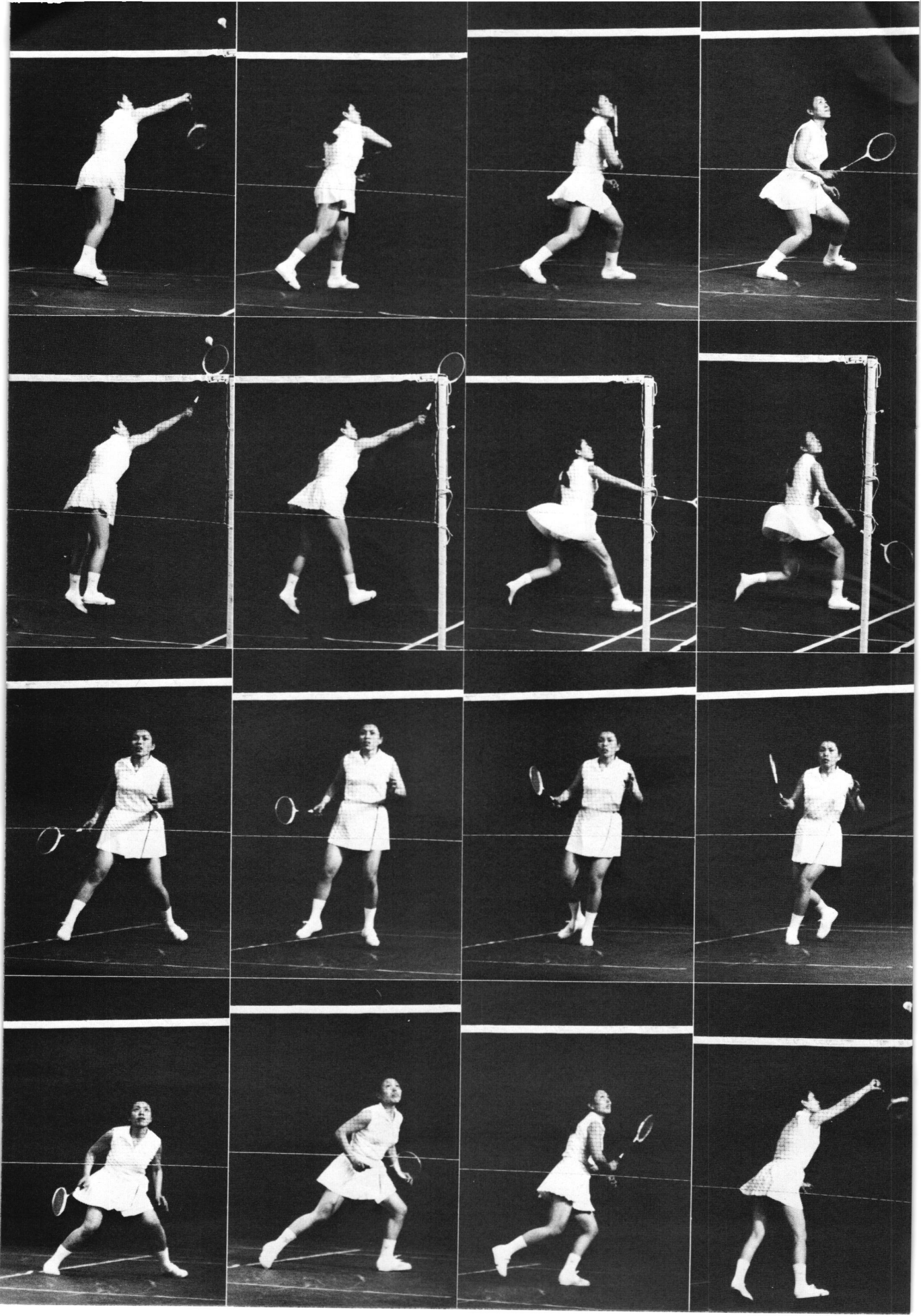
この一連の写真は、しつようにバックサイドの奥を攻めつけられながら、少しもあわてることなく、タイミングを巧みに合わせながら足を運び、クリーンヒットしたものである。

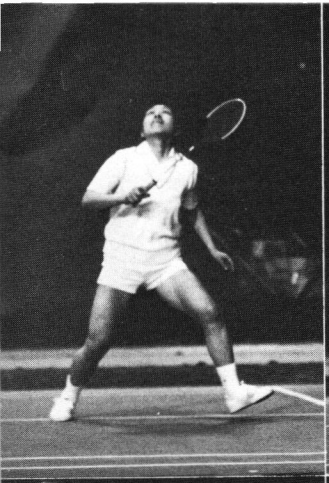
注目すべきは、④から⑤へ移るときの、スナップである。このようにスナップをきかせておかないと、いくら肩やひじに力を入れてもシャトルは飛んでくれない。

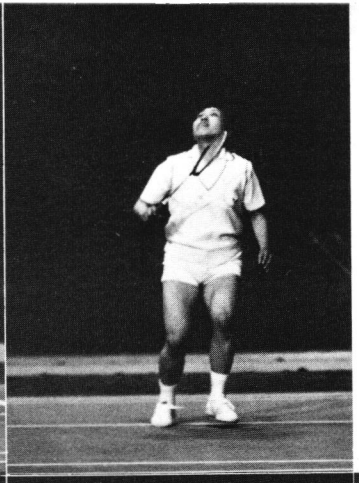
そしてフットワークが流れることなく、必ず右足に重心をかけてコート中央に戻れる態勢になっている。

④	③	②	①				
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
⑳	⑲	⑱	⑰	⑯	⑮	⑭	⑬
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	







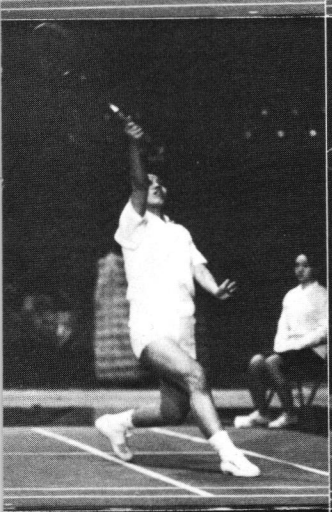


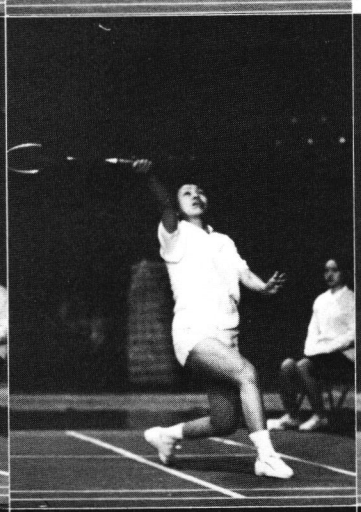
⑥コートの後から前へ

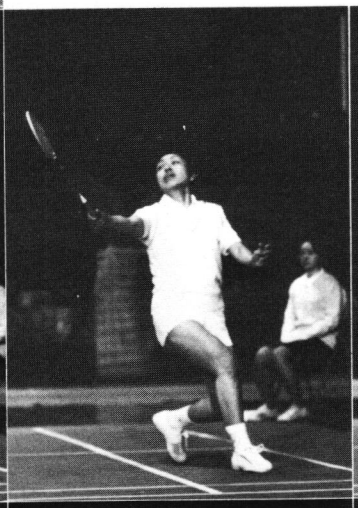
今度は側面から見たもので、ハイバックを返してから、やはりバックサイドの前へ落とされたシャトルに向って足を運ぶとき。

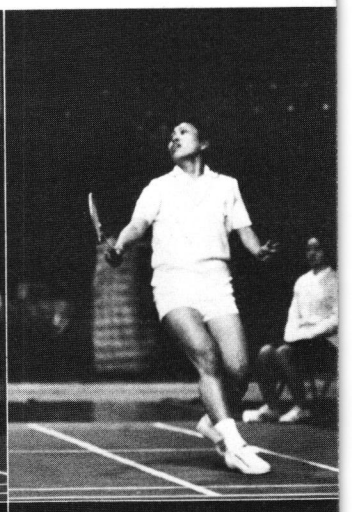
やはり、バックハンドの手首はきれいに返っており、ヒジも曲がっていない。そして、ネットぎわに落とされたシャトルに対するフットワークによく注目していただきたい。

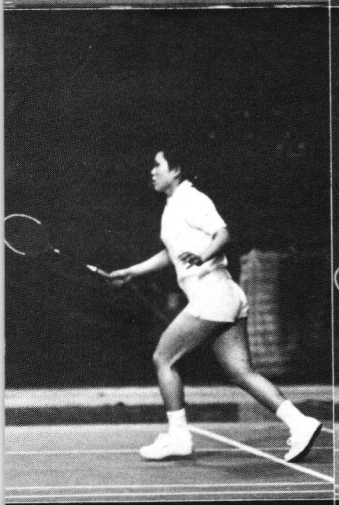
⑥	⑤	④	③	②	①		
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
㉒	㉑	⑳	⑲	⑱	⑰	⑯	⑮
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

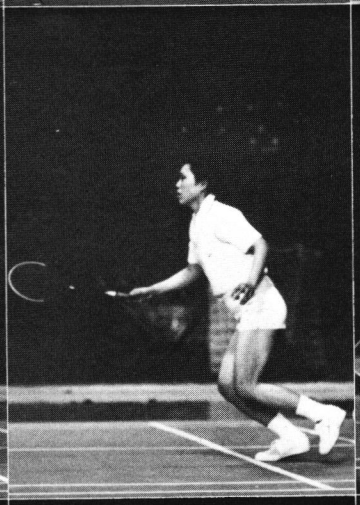


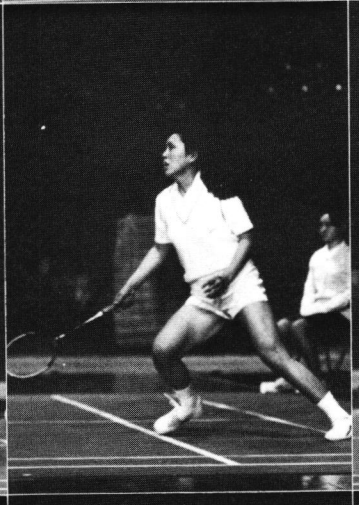


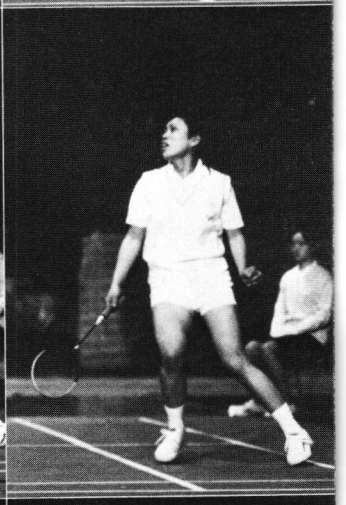


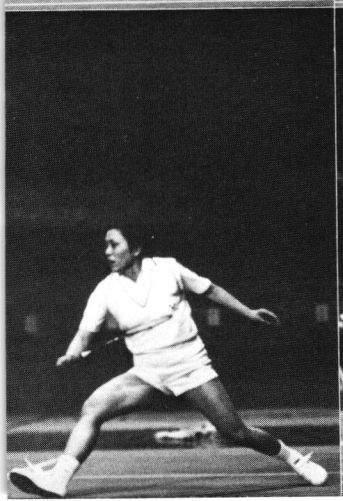


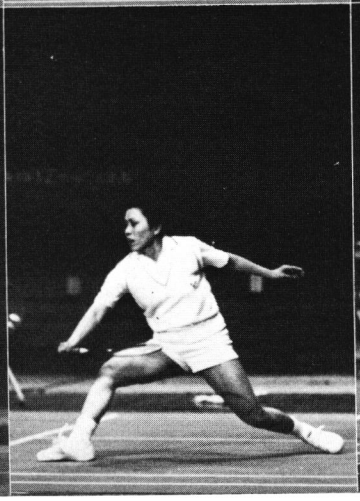


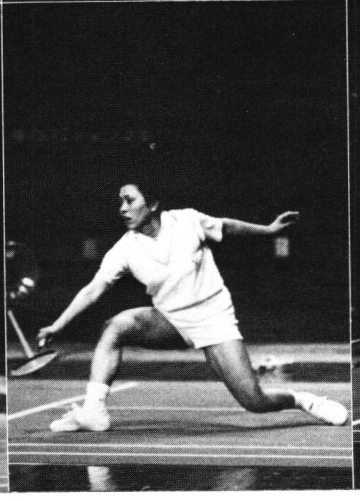


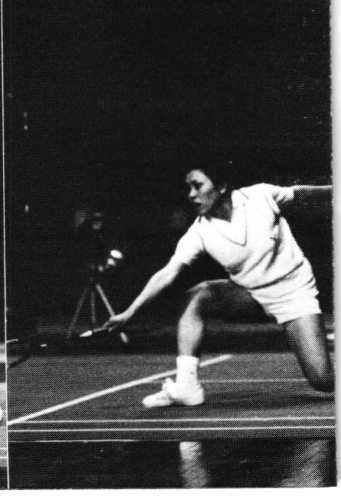


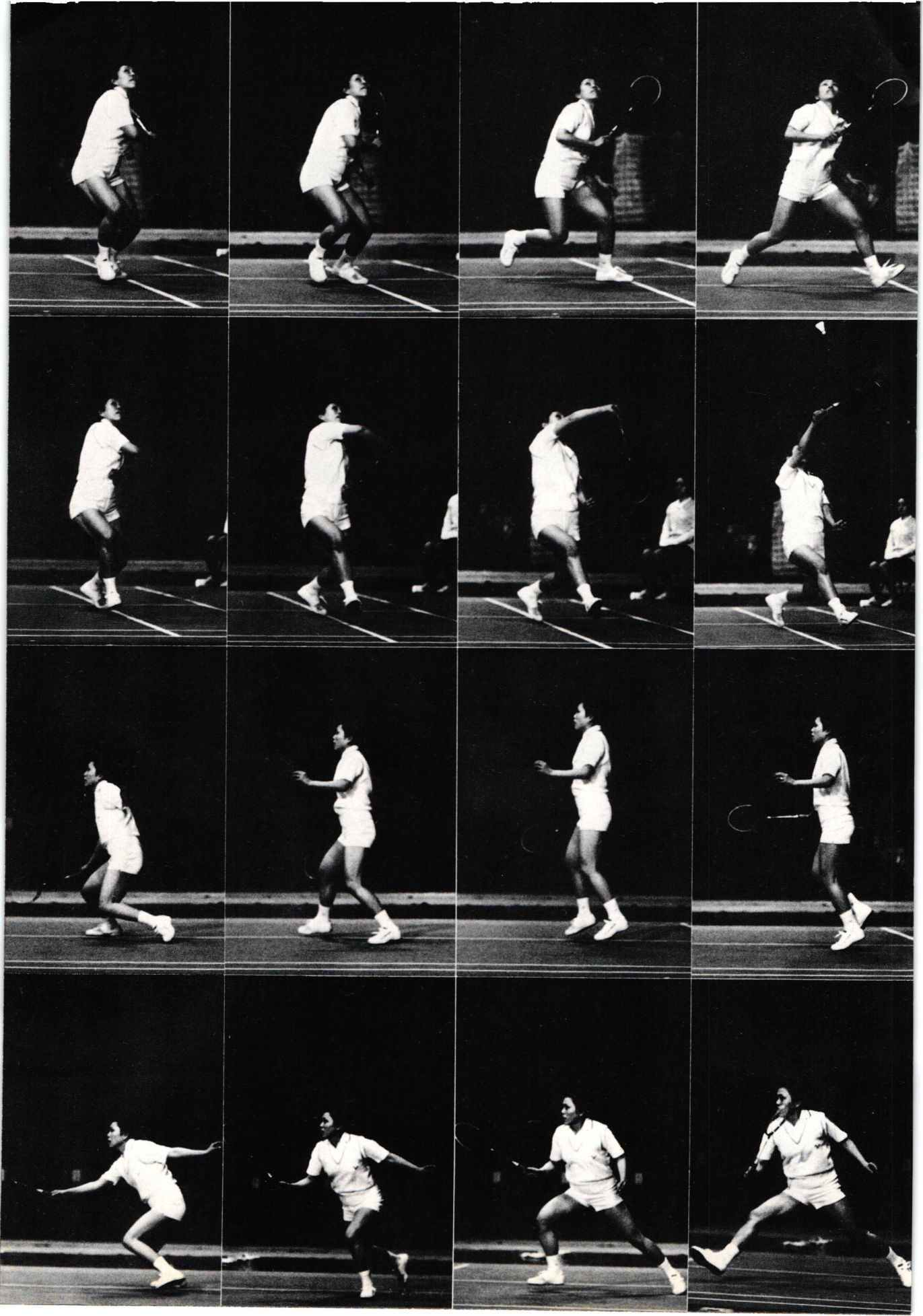






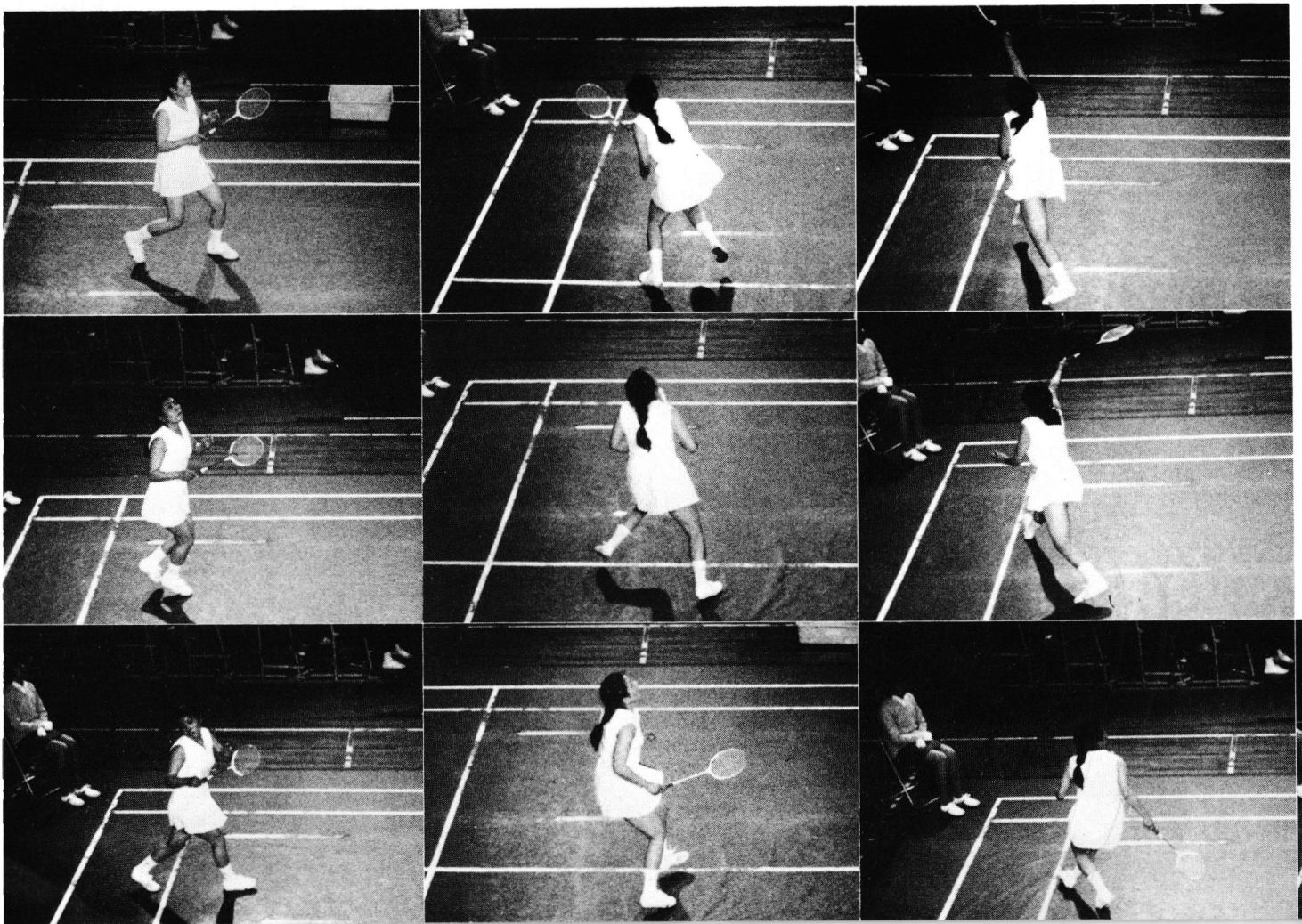






⑦フォアハンドのクリヤー～バックハンドのクリヤー，そしてもう１度バックハンド

①	⑭	⑮	
②	⑬	⑯	
③	⑫	⑰	㉖
④	⑪	⑱	㉕
⑤	⑩	⑲	㉔
⑥	⑨	⑳	㉓
⑦	⑧	㉑	㉒



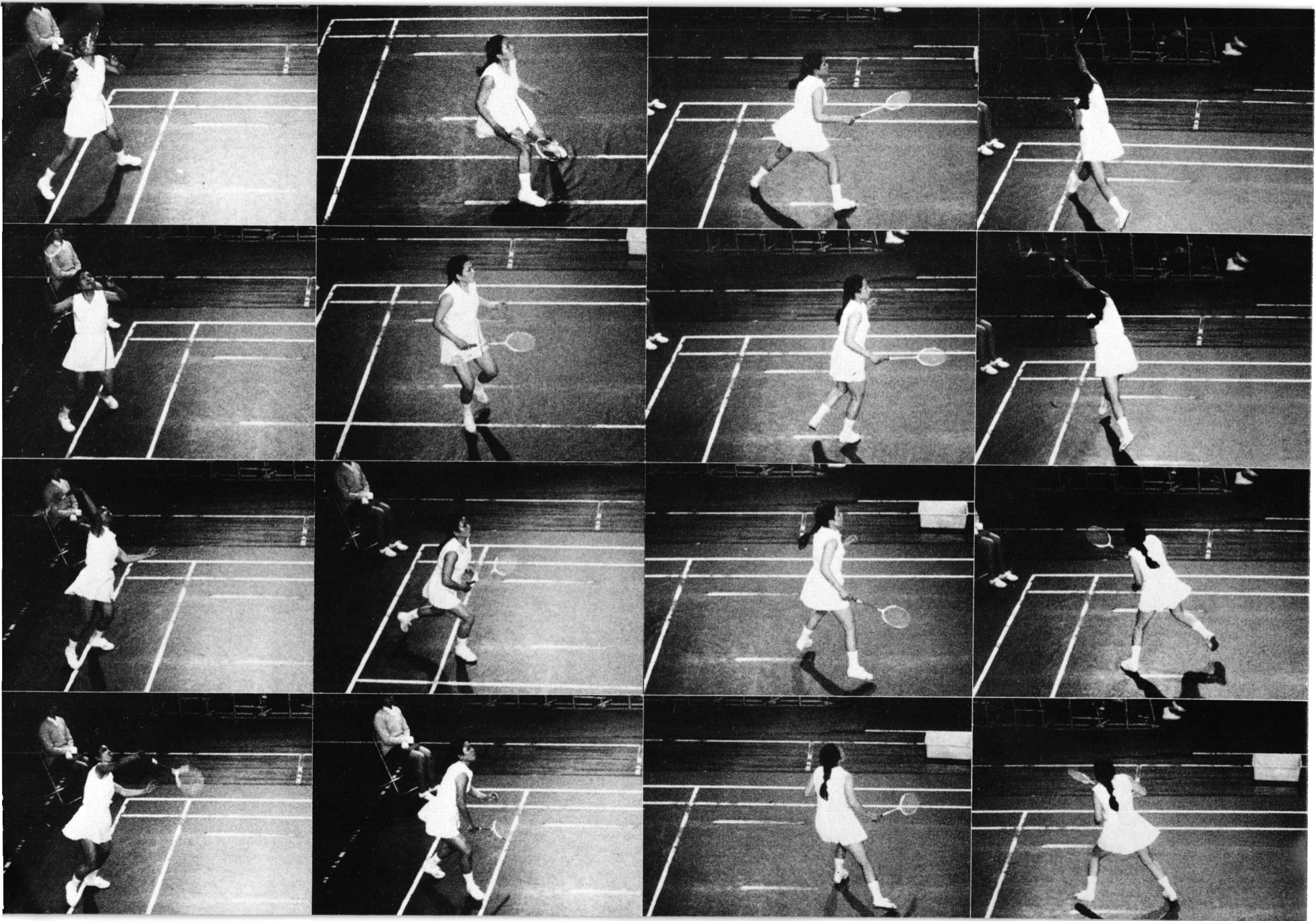
まずサーブのレシーブから始まる一連のフットワーク。

相手のサーブをバックラインを見ながらハイクリヤーで返し、すばやくホームポジションにもどる。

そして次にやや逆モーションをつかれた形でバックハンドの奥を攻められる。これはフォアハンドで回り込む余裕がなくバックハンドによってハイクリヤーを返している。

態勢はやや苦しくなってきているが、正確にホームポジションへもどろうとしている。

そこへ、もう１度バックハンドを攻められ、今度は、打つ瞬間に力をぬいて、ドロップショットを返している。足の踏み出しと、運びに注目。



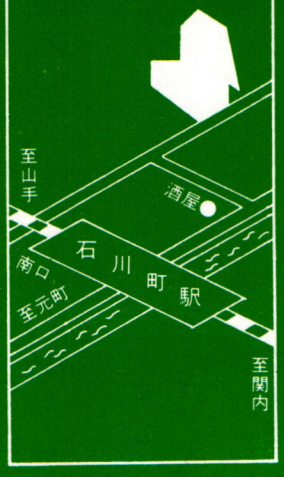
ラケットショップ元町

※ラケットお買上げの方先着3,000名様にラケット掛けを進呈致します。

●横浜店

☎045-651-2020

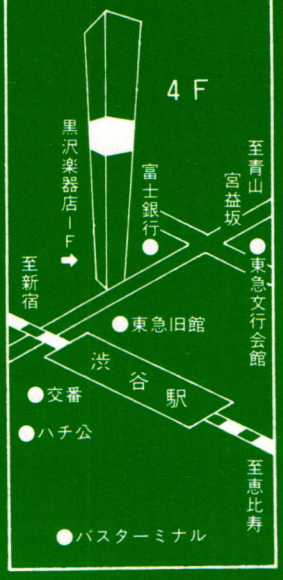
バドミントン
テニス
プロショップ



●渋谷店

☎03-400-7390

世界で初めての
バドミントン
プロショップ



第4回全日本実業団・学生バドミントン選抜大会（団体戦）・東京

電電東京と日本女子体育大学が制す

――土田みごとなポイントゲッター、今泉を倒す――

第4回全日本実業団・学生バドミントン選抜大会（団体戦）は4月18日、東京板橋区立体育館で開かれた。

結果は新たに土田をメンバーに加えた電電東京と、層の厚さで安定する日本女子体育大学が優勝した。

詳細は次のとおり。

▼男子一回戦

高岡市役所 3－2 日本大学

河村博之	15	15	2		0	藤木 浩
今泉 勉	15	15	2		0	山本秀樹
関村順治	15	15	1		0	小山浩一
牧野光男	15	15	2		0	安田克己
米沢和男	2	15	18	14	0	山本秀樹
		15	5			
関村順治	1	15	11	15	2	伊東勝之
キケン		15	8			
米原照男	0	12	10	15	2	小山浩一
		15	15			

法政大学 4－1 電電北海道

原 敏夫 / 仲尾信一 1 — 15 8 15 — 15 9 15 — 2 木村敏男 / 遠藤好男 0

中井基夫 / 辻 敏弘 2 — 15 15 4 — 15 9 — 0 赤塚正三 / 九原正敏 2

原 敏夫 2 — 15 15 — 1 1 — 0 佐藤義孝 / 辻 敏弘 0

仲尾信一 2 — 15 17 14 — 8 — 0 九原正敏 / 遠藤好男 2

電電東京 3－2 日本体育大学

池田信孝 / 尾崎幹雄 2 — 15 15 6 — 15 6 — 0 須藤 茂 / 中村新一 0

田所光男 / 土田証雄 2 — 15 15 6 — 4 — 0 出石 勉 / 池田隆治 2

尾崎幹雄 2 — 15 17 6 — 4 14 15 — 1 須藤 茂 / 中村新一 0

町田秀和 0 — 10 4 15 — 15 — 2 岩崎盛和 / 野本綱夫 2

野本綱夫 0 — 4 5 15 — 15 — 2 舛田吉光 / 町田秀和 2

中央大学 4－1 トヨタ自工

西村正美 / 長谷川博幸 1 — 14 15 3 — 17 — 2 本間順次 / 谷口 寛 0

三ノ宮芳和 / 秋葉 博 2 — 15 15 4 — 2 — 0 松島信之 / 南田義正 2

西村正美 2 — 15 6 15 — 6 15 — 1 谷口 寛 / 本間順次 0

長谷川博之 2 — 15 15 3 — 1 — 0 梶川博之 / 川信信之 1

管 敏明 2 — 17 15 9 — 16 — 0 川信信之 / 梶川博之 2

▼準決勝

高岡市役所 3－1 法政大学

河村博之 / 今泉 勉 2 — 15 15 9 — 1 — 0 原 敏夫 / 仲尾信一 1

関村順治 / 牧野光男 1 — 9 7 15 4 — 15 — 2 中井基夫 / 辻 敏弘 0

米沢和男 2 — 15 15 — 8 2 — 0 原 敏夫 / 仲尾信一 1

今泉 勉 2 — 17 15 6 — 15 — 0 辻 敏弘 / 仲尾信一 1

米原照男 / 打ち切り — 仲尾信一

電電東京 3－0 中央大学

池田信孝 / 尾崎幹雄 2 — 15 15 5 — 6 — 0 西村正美 / 長谷川博幸 0

田所光男 / 土田証雄 2 — 15 15 7 — 7 — 0 三ノ宮芳和 / 秋葉 弘 0

尾崎幹雄 2 — 15 15 6 — 5 — 0 長谷川博幸 / 西村正美 0

土田証雄 / 打ち切り — 西村正美

田所光男 / 打ち切り — 管 敏明

▼決勝

電電東京 3－2 高岡市役所

池田信孝 / 尾崎幹雄 1 — 1 7 15 15 — 15 15 11 — 2 河村博之 / 今泉 勉 0

田所光男 / 土田証雄 2 — 15 7 15 7 — 10 — 1 関村順治 / 牧野光男 1

尾崎幹雄 0 — 8 9 15 — 15 — 2 米沢和男 / 今泉 勉 2

土田証雄 2 — 15 18 11 — 4 16 15 — 1 今泉 勉 / 河村博之 0

田所光男 2 — 15 15 — 12 — 0 米原照男 / 仲尾信一 1

▼女子一回戦

日本女子体育大学 3－2 旭光学益子

近藤小織 / 渡辺多喜子 2 — 15 15 3 — 9 — 0 青木恵津子 / 増山直子 1

大場三弥子 / 村田嘉江 0 — 6 14 17 — 15 — 2 藤井由美子 / 沼能久子 1

千葉陽子 2 — 11 11 4 — 4 — 0 日向野藤枝 / 松田敦子 0

近藤小織 2 — 11 11 — 1 6 — 0 藤井由美子 / 沼能久子 2

日本体育大学 3－2 電電東京

高瀬治子 / 松田美恵子 0 — 9 5 15 — 15 — 2 石崎茂子 / 今田真知子 2

大塚ソノエ / 関根和子 2 — 15 15 4 — 8 — 0 清水礼子 / 福原友子 0

高瀬治子 1 — 9 11 3 — 12 6 11 — 2 石崎茂子 / 清水礼子 2

日山裕子 2 — 11 11 2 — 1 — 0 清水礼子 / 石崎茂子 1

大塚ソノエ 2 (11—7, 11—1) 0 今田真知子

四条畷短大 3—2 ヨネックススポーツ

高田幹子 2 (18—15, 15—8, 11—15) 1 梅野尾悦子
植野恵美子 (18—15) 陣内裕子

落合光子 2 (15—10, 15—11) 0 我妻たき子
佐藤真弓 (15—10) 古谷成代

高田幹子 2 (11—8, 8—11, 11—1) 1 陣内裕子
(11—8) 陣内裕子

植野恵美子 0 (9—11, 7—11) 2 梅野尾悦子
(9—11) 梅野尾悦子

落合光子 (11—3) 古谷成代
キケン

河崎ラケット 3—2 東京女子体育大学

湯木博恵 (15—9) 0 矢口洋子
池田美加 2 (15—6) 沢内真由美

安味節子 0 (6—15, 6—15) 2 長沢広美
渡辺みゆき (6—15) 長谷川信江

池田美加 2 (11—8, 11—2) 0 矢口洋子

湯木博恵 2 (11—7, 11—2) 0 沢内真由美

安味節子 0 (2—11, 3—11) 0 長沢広美

▼準決勝

日本女子体育大学 3—0 日本体育大学

千葉陽子 (10—15) 1 関根和子
松田敦子 2 (15—8, 15—5) 大塚ソノエ

近藤小織 (15—8) 0 石田尚子
渡辺多喜子 2 (15—9) 石井由美子

千葉陽子 2 (11—4, 8—11, 11—8) 1 高瀬治子

渡辺多喜子 (11—4) 松田美恵子
打ち切り

近藤小織 (打ち切り) 日山裕子

四条畷短大 3—2 河崎ラケット

高田幹子 0 (6—15, 9—15) 2 湯木博恵
佐藤真弓 池田美和

落合光子 2 (15—1, 15—0) 0 安味節子
植野恵美子 渡辺みゆき

高田幹子 2 (11—8, 11—4) 0 池田美加

植野恵美子 0 (9—11, 4—11) 2 湯木博恵

落合光子 2 (11—0, 11—0) 0 堀江厚子

▼決勝

日本女子体育大学 3—0 四条畷短大

近藤小織 (15—11) 0 高田幹子
渡辺多喜子 2 (17—15) 植野恵美子

千葉陽子 (17—16) 落合光子
松田敦子 2 (15—7) 佐藤真弓

近藤小織 2 (11—2, 11—3) 0 高田幹子

渡辺多喜子 (2—11, 12—11) 植野恵美子
打ち切り

千葉陽子 (打ち切り) 落合光子



全英選手権大会（前号詳報）で二位という大健闘をしたインドネシアの新星

リム・スウィ・キン


MADE BY SUNBATTA
SUNBATTA
Rush
SunBatta
BADMINTON RACKET
S-75
Rush
SunBatta
サンバタ

日本教職員バドミントン連盟編

審判に関する100問集 ①

日本教職員バドミントン連盟では、指導者とプレーヤーのための**バドミントン・ハンドブック**を刊行しています（第Ⅰ編「競技規則一〇〇問集」第Ⅱ編「大会運営一〇〇問集」第Ⅲ編「審判に関する一〇〇問集」）。

これらはいずれも、指導者はもちろん、選手の方々は必携の書といえます。本誌でも以前「**審判に関する一〇〇問集**」の一部を紹介いたしましたが、読者の方々からのお問合せもあり、また非常に有益な内容であり、バドミントン愛好者〝必読〟の書でありますので、本号から再び「**審判に関する一〇〇問集**」を日本教職員連盟の多年のご努力とその労作に敬意を表しつつ連載いたします。

なお、原本はヨコ書きですが、本誌はタテ書きであるため、原本の表現を一部変えることがあります（たとえば、「下記の通り」を「別記の通り」など）。

また、この**バドミントン・ハンドブック**シリーズのお問合せ等は、ハガキで〒一七六　東京都練馬区旭丘一の五一　電話〇三―九五三―〇五七一　**日本教職員バドミントン連盟事業部**まで。

第1章　審判員

問1　審判員も大会役員だと思いますが、他の役員との関係を教えて下さい。

答　大会の運営にあたる役員は、㈠総務㈡競技㈢審判の三本の柱から成り立っています。（規定第4章役員の項参照＝注・規定は大会運営規定の略）したがって、審判員は大会役員です。

問2　審判員にはどのような種類があるのですか。

答　審判長、副審判長、主審、サービス・ジャッジ、線審の五種類です。（規定17条）

問3　副審というのはないのですか。

答　以前にはありましたが、昭和四〇年になくなりました。副審はラケットのフレームでシャトルを打ったとき、フォルトであった頃には必要でした。このフォルトを厳正に判定するために、主審以外に、主審の反対側に位置する副審が必要だったのです。昭和三九年に競技規則が変って、フレーム・ショットがフォルトでなくなったので、それにともなって副審も廃止されたわけです。

問4　よく点数を示す係がつくことがありますが、この人も審判員ですか。

答　審判員ではありません。大会の競技委員長のもとにある点数表示係です。しかし、まるで審判員と同じに見えるくらい主審と協同して任務を遂行する大切な役目の人ですね。ですから、観客に見せるスポーツとするために、どの大会でもなるべくこの係をつけてほしいものです。

問5　審判員は誰が、きめるのですか。

答　その大会の主催者側で任命します。（規定18条）主管者があるときには、その主管者が決めます。このことは、第Ⅱ編の問45でお話ししましたね。

問6　審判員には、どういう人がなれますか。

答　審判員は、原則として公認審判員があたります。日本協会に公認審判員制度があります。日本協会の会員で、その検定に合格すれば、公認審判員の資格がとれます。公認審判員には1級から3級まであり、審判長は1級主審とサービス・ジャッジは2級以上、線審は3級以上と定められています。（規定17条）なお、審判員はその大会の出場者以外の第三者で定めるという条項もあります。（規定18条）

問7　公認審判員の3級から1級の資格をと

るにはどうしたらよいのですか。

答　3級公認審判員は支部（都道府県）協会主催の3級審判員資格検定会に参加し、所定の成績をおさめ、地区公認審判員資格審査委員会（代下地区委員会という）より申請された者、2級および1級は、日本協会の各級審判員検定会に参加し、所定の成績をおさめ申請された者となっています。検定会では学科試験と実技試験があり、上級になるにしたがって合格する基準が高くなります。また、検定を受ける資格としては、日本協会会員であること、さらに2級は、3級審判員として、2年以上の経験を有し、支部協会長および地区委員会の推薦が必要で、申請年度を含めて2ヵ年以上継続して日本協会会員であること、1級は2級審判員として3年以上の経験と、申請年度を含めて3ヵ年以上日本協会会員であることが必要です。（審査規定8条、9条、10条＝注・審査規定は公認審判員資格審査委員会の略）

問8　検定会についてもう少しくわしく説明して下さい。

答　検定会では、学科試験と実技試験を行ないます。審査規定13、14条で、1級、2級検定会の合格基準を次のように定めています。

（1級の場合）

学科試験　常識問題10点、規則問題20点、合計30点とし、この内27点以上

実技試験　規則、コール、態度、運営各5点、合計20点とし、この内18点以上

（2級の場合）

学科試験　常識問題5点、規則問題15点、合計20点とし、この内18点以上

実技試験　1級と同じ

（3級の場合）

3級の検定会ならびに検定方法は地区委員会の定めるところで行なわれますが、だいたい2級の場合に準じて行なわれているようです。費用は、別記の通りです。（以下次号）

	申請料	公認料
1級審判員	200円	1000円
2級審判員	200円	円
3級審判員	200円	500円



ユーバー杯奪還への道

代金後払いにて発売中

●**体裁**＝A5判128ページ、うちカラー16ページ

●**主な内容**

第Ⅰ部＝大会経過と試合全記録

☆必勝の念で出発☆波乱を含み準決勝へ☆ベック接戦の末敗る☆日本ついにV4ならず☆ユーバー杯チーム合宿記☆観戦記・決勝全ストローク・プレー

第Ⅱ部＝ユーバー杯奪還対策をさぐる

☆これからの若手育成が肝要（小宮淳宏）☆選手よもっと自分にきびしくあれ（中山紀子）☆全世界に眼を向けよう（福井正康）☆背水の陣で総力をあげてがんばろう（片岡輝明）☆第7回ユーバー杯大会日本チーム監督として（小飼栄一）

第Ⅲ部＝オフ・ザ・コート

☆忘れられないこの一年間（中山紀子）☆SAIPON???（福井正康）☆選手団日記

●**定価1000円**

●**申込方法**＝ハガキに住所・氏名・申込部数を明記のうえ、左記あてお送りください。

●**申込宛先**＝〒150東京都渋谷区神南一ノ一ノ一・岸記念体育会館内・日本バドミントン協会出版局ユ杯係

＝第7回ユーバー杯大会日本チーム監督として＝最終回

選手・スタッフに感謝

――今後に必ず生かしたい敗戦の教訓

小飼栄一

本稿は、別冊「**ユーバー杯奪還への道**」に掲載したものですが、未掲載の前二回分のまとめとして、また別冊をお持ちでない読者の方々のために、ここに再収録いたします。

今回をもちまして、「第7回ユーバー杯大会日本チーム監督として」の連載を終了いたします。

現地適応力を考えて日程組む

一九七五年の全英大会終了帰国後の合宿は、総仕上げの段階なので、本大会に起用の選手を重点とした対戦を組み、好ゲームの展開となり、スタッフや合宿開催地の関係者ろ満足させてくれました。なかでも湯木・池田組と相沢・竹中組の複の対戦は激しいぶつかり合いをみせ、常に一時間以上にわたる熱戦となり、ダブルスの起用の目途がたちましたが、万一の場合を考えて第三ダブルスを中山・西尾組がつかえるように備えました。

これにひきかえ、単は湯木以外は誰がぬきんでているのか、合宿中の対戦では予想も出来ない状態であったのですが、私の心の中では中山、徳田、西尾の順で考えており、体力面での心配がなければ竹中の起用も考えておりました。

それから実戦だけで判断するのではなく、日本体育協会のスポーツ科学研究室にお願いしましてジャカルタの気候の条件を想定して「高温多湿下の運動」の実験をしていただき、選手のそれぞれの運動適性を測定してもらい、これらの結果を参考資料として選手起用および現地での適応日数等を考慮し、遠征日の決定をすることにしたわけです。

選手起用については後述しますので、まずジャカルタ入りの日をいつにするかは「高温多湿下での生活は心臓の働きに大きな負荷をあたえるが、適応は日常生活ならば四～五日で成立されるといわれ、運動をするにしても十日程度で快適条件下と同程度に運動が出来るような生理的適応が成立する」と報告されましたので、日本の第一戦が六月二日、そして決勝が六月六日となっていますので適応日数を考え、五月二十五日を到着日と決めたのです。

長足の進歩・徳田起用を決める

さて単は第1シングルス湯木は決定し、中山の第2シングルスも確定したのですが第3シングルスは九州の合宿時からめきめきのびた徳田が、最後の日立戸塚の合宿で一応当確となりました。西尾は一つの合宿中でも好、不調の波が大きく、また故障の多い選手で安定性に欠けるのでつかいづらい選手であり、池田、竹中、相沢は複に専念させる方が良い結果を得られるものと判断して、私の頭の中で最終のチーム編成をしました。

中山がシングルスに専念しだしてから、多くの選手が中山の復調につれて萎縮し、後退していったのに対して、徳田は逆に一日一日と成長したのは非常にたのもしく、また、高温多湿下の適性も徳田が最も良い結果が得られたことも第3シングルスに起用する因になったのです。

ジャカルタ入りの日、日本協会からの連絡がインドネシア協会に届いておらず、ために通関に手間どり、選手は長旅の疲れと緊張が重なり、加えて出迎えがないためホテルも不明で到着早々に何かつまづいた観があって、前途に不安をいだかせたのは非常な不手際だと思います。

翌日、早速練習に出かけたのですが、初夏の日本に比べればさすがに暑いと感じましたが考えていたほどでもなく、まずまずの気候状態なので一安心しました。

期待にこたえてくれた徳田

さていよいよカナダと対戦することになり、オーダーの提出

になったのですが、複はともかく、単は湯木、竹中、徳田とだしました。これは決勝の相手に中山の出場をさとられないためであり、特に決勝がインドネシアと対戦するとなるとわれわれは湯木のトップシングルスをはずすことは出来ませんが、相手はこれに三番手の選手を当ててくることは明らかです。そして日本の二番手に自国のトップを、三番手に二番手をというようなオーダーを作ることが可能なわけです。英国があがってきても同じことがいえるわけですので、単で二勝をするためには、自衛上多少のカムフラージュをする必要があったわけです。

カナダ戦は竹中対ヤングバーグのシングルスから始まったのですが、竹中の動きが悪く予想外の敗戦でスタートすることになったのですが、ベテランらしくコート上の風によるシャトルの流れを指摘し、その後の選手の参考となったことは当然とはいえ、心すべきことだと思います。

第2シングルスは徳田であり、初出場ということから心理的な影響を心配したのですが、よくマイペースで試合を進め、貴重な一勝をあげたのは立派でありよくやったと思います。彼女のこれからの選手生活の中で大きな経験になったことは間違いなく、世界的な選手に大成する基礎になることと思います。

カナダ戦は竹中の一敗だけで6－1と勝ち、決勝に進出したのですが、このカナダ戦のオーダーから決勝においても中山の単での出場はなしと推測し、複での出場も50パーセント程度と相手チームは考えるのではないかと推理していました。

その決勝の相手はインドネシアか英国かと、試合当日どちらが勝つかをわれわれは投票したのですが、どちらが勝っても4－3と予想する人が多いなかで、ただ一人中山だけが5－2でインドネシアの勝ちとずばり当て、しかも単と複で各一つしか英国はとれないとその内容まで当てた、その炯眼にはおどろき入った次第です。

カギとなった相沢・竹中

決勝の対戦国がインドネシアに決まりオーダーの交換になりましたが、すでにわれわれはインドネシアのトップはテレシア、セカンドがタティ、ラストをウタミの順で出してくるものとして、湯木、徳田、中山をそれぞれ対戦相手を決めていたのです。

オーダー交換後、インドネシアチームばかりでなく、関係者から中山の出場について質問が集中したのは中山に対する関心がいかに高く、そしてニュースであったかを物語るものであり、またカナダ戦での作戦がなければインドネシアのオーダーもわれわれの読みのとおりにはいかなかったものと思われます。

中山とウタミは過去の対戦はすべて中山の一方的な勝ちなので、ウタミには中山アレルギーがあることは間違いなく、このコンプレックスを利用したなら有利な戦いが出来ると判断しておりました。全英大会、そして対英国戦でのウタミは安定したプレーをしておりましたが、必ず中山はこれを破るものと確信しており、湯木と中山で必ずシングルスでまず二勝を収めることにしておりました。

複は第一試合が竹中・相沢組とミナルニ・レジナ組となりましたが、この試合がすべてを決することになる大事な一戦と思っておりました。

竹中は一般的に親分肌で剛胆な人柄と受けとられておりますが、私は竹中が気が小さく、憶病なのを勝気な性格がこれを隠しているとみておりました。このようなタイプのプレーヤーには、過去の戦績やゲーム中のささいなミスを気にしすぎて自ら墓穴を掘ることが多いので、ミナルニ・レジナ組に二連敗しているのと思いますが、この決勝の雰囲気で自分のプレーが出来るかと心配していたのです。

日本で開催された二回のユ杯大会でも初出場の選手はいずれも苦杯を喫しており、湯木が全英大会のチャンピオンになった年の初防衛戦で、ミナルニにストレート負けしたことは、いかにこの雰囲気を克服することが困難かを物語っています。

まして異常な雰囲気のなかで彼女に百パーセントの力を出せというのは無理とは思いますが、それを願わずにはいられませんでした。

テレシア・イメルダ組はデンマークオープン、全英大会を通してテレシアの強いリストをきかせたスマッシュとイメルダの早いタッチでスピーディな攻撃で強敵を倒しているので、この攻撃をいかにかわすかがポイントになるわけです。

それには湯木の落ち着いたプレーによってまず池田をリラックスさせることが必要であり、そしてテレシア・イメルダの若さにつけ込み、ミスを出させるベテランらしいプレーを期待したわけです。

この第2ダブルスまでに四勝をあげ決着をつけなければインドネシア人の国民性からみて、会場内の雰囲気はますます異常になっていることの心理的なプレッシャーが大変気になっておりました。特に心理面の影響が大きいサービスに彼女が自信をもっていないだけに心配でした。

相沢は一見線が細そうですが、意外と図太いところがあり、物事にこだわらない方なので相沢の活躍に期待しておりました。

そしてこのダブルスの勝敗が次のダブルスに大きく作用するものと思っていただけに是非とも勝って湯木・池田組にバトンタッチをしてもらいたいと願っていたわけです。

何としても4－1で勝ちたい

第2ダブルスの湯木・池田組とテレシア・イメルダ組の一戦は、湯木の闘志と池田の実力を出し切るかどうかにかかっていました。

湯木はデリカシーというよりナーヴァスネスな面があり、決勝の雰囲気が異常な状態のなかですすめられることは、過去の事例からはっきりしており、このダブルスの時が一番エキサイトするものと思われますので、湯木のファイトでこの雰囲気を克服し、神経質になることなく池田を好リードしてほしいと思っておりました。

池田は数回の海外遠征で、外国での試合にはかなり慣れたも

になることは明らかであり、これに対するわれわれ選手団の精神状態は極度の緊張を余儀なくされ、これによって選手も正常な状態でのプレーは出来なくなり、それぞれのウィークポイントが露呈され苦戦をしいられることは必至と考えておりました。

それで私は4－0はありえないが4－1で是非勝ちたい、いや勝たなければならないと思っておりました。そうでなければ3－4で負けるであろうとの予想もしていました。

以上が試合前の私の考えと読みであったのです。

在留邦人の応援にファイトを燃やす

試合当日、会場のセナヤンスポーツパレス付近には戦車、装甲車を配備しての一段とものものしい警備をみて、これはすごい日になるぞといやな雰囲気を感じました。

会場内にはいると、ジャカルタ駐在の三菱商事、クラレその他多くの日本人の方々が応援にかけつけておられ、非常に心強く思いました。

現地入りした日、在ジャカルタ日本人会に応援をお願い致しましたところ、インドネシアの国民感情を刺激するような組織動員はかえってマイナスであるからとのことで、日本からの応援団と現地のわずかな人の応援しかないと思っていたわれわれに大勢の日本人の応援は現地の人々に対しても、故国のファンのためにも改めて期待を裏切ってはならないとファイトを燃やしたのでした。

試合開始前のセレモニーでジャカルタ特別市の長官から満員の観衆に対して節度ある応援をするようにとのスピーチがなされました。これはインドネシア人の間にあるバパアイズム（長老に対する尊敬と服従の習慣）に訴えて規律ある試合をしようとのインドネシアバドミントン協会の努力と誠意の表われと受け取りました。

事実、このためわれわれが恐怖を感ずるような野次や、激しい怒号はありませんでした。

だからといって静かな雰囲気で試合が進められたのではなく、それは言葉では表わすことの出来ないくらい、騒がしさをとおりこした壮烈な騒然さのなかで、プレーをしなければなりませんでした。

心の準備は十分にしてきたつもりでも、実際にコートに立つと周囲全体からの圧迫感からの影響を受けなかった選手はいなかったのではないかと思います。

さてこのような状態のなかで試合ざ始まりました。

湯木、主将の重責はたして完勝

第一試合の湯木とテレシアの単は湯木のスロースターターということもあり、またテレシアが対英国戦のときのギルクスとの好試合ぶりから、前半苦戦をしいられるのではないかと心配していたのですが、さすが主将らしく慎重にゲームを運び、第2ゲームでは全くよせつけず幸先のよい一勝をあげました。

第二試合の徳田とタティはもしかしたらの期待はありましたが、実力差からいってこの一勝は無理とは思っておりましたが、第1ゲームの中盤まで互角に渡りあい、インドネシアのNo.1の顔色をなくさせ、場内をわかせたのですが、キャリア不足からシャトルを追うのが精一杯で、選球する余裕がなく、かなりのアウトボールに手を出して、これが体力の消耗となって後半は得意のスマッシュが乱れ、点差をつけられてしまいました。

しかし英国チームのエース、ベックを力で倒したタティに全力を出し尽くして善戦したことは高く評価出来ると思います。

中山に観衆も魅了される

第三試合は至宝中山とインドネシア期待のウタミの一戦ですが、これはオーバーないいかたとなりますが、世界のバドミントン関係者が最も注目した試合ではないかと思います。

二年半のブランクを、一度も単でのトーナメントに参加することなく、突然このような大試合に出場することは前例もなく、常識では考えられないことであり、相手のウタミは全英大会ではベックを破りベスト4に進出し、着々と力をつけている選手であるだけに、この試合に関心が集ったわけです。

この試合の内容は終始中山ペースで進められ、第2ゲームの後半になかなかポイントがとれず膠着状態となったのですが、これを辛抱強く切り抜けたところなどはさすがかつての女王の貫録十分でした。

二ゲームを通じて打ったスマッシュはわずか二本、ディフェンシブなプレーに徹し、後はコントロールされたクリヤーでウタミのミスを誘うゲーム展開と、相手の弱点を的確につくヘッドワークのプレーに、観衆も魅了され、この決勝戦で最も静かな一時だったと思います。

これで予定どおりシングルスで二勝をあげることが出来て、勝利に一歩前進して、ダブルス戦に移ったのです。

相沢・竹中は勝ったと思ったが

複の第一試合、相沢・竹中組がコートにはいる前、竹中の顔が青ざめており、かなり緊張している状態なので、楽な気持でやるように声をかけたのですが聞こえなかったようです。

竹中がこのような状態で試合をしたことを、私はふと思い出しました。それは昭和四十四年の第五回国際学生大会の時で緒戦の対台湾チームとの対戦のときに、相沢と組んでのダブルスで、このときもいくら声をかけてもだめで、落ち着くのを時間をかけて待つだけでした。そしてゲーム開始後またたく間に0－7とリードされてしまいましたが、自分を取りもどしてからは一方的な試合となり15－7、15－1と楽勝したことがあったわけです。しかしその時の相手は実力が段違いであったので、すぐ自分たちのペースに持ち込むことが出来ましたが、今度の相手は千軍万馬のミナルニ組であるだけに不吉な予感におそわれました。

やはりこの不安は適中し、ミナルニの老獪なプレーに立ち直る間もなく、一方的に攻められ、第1ゲームを失ったのですが、後半やっと相沢・竹中組らしいプレーが出てきたので、第2ゲームが勝負どころと思っており

ました。

それは英国戦でもミナルニのスタミナがゲーム後半になるときれて苦戦をしており、特に第2ゲームの後半はそれが顕著であり、ここにつけこむことが出来ると思ったからです。

やはり思ったとおりミナルニの動きがにぶくなりミスが多く、レジナもあせって自滅するケースとなってゆき、変って相沢・竹中組のスマッシュがよく決って、このゲームを取ることができて、ファイナルゲームになったのです。

この時、私はほぼこのゲームを手中にしたかに思ったのですが、五分間のインターバルのわずかな時間にミナルニがあれほどまでに回復するとは思ってもみませんでした。

ミナルニ巧妙にペースをつかむ

第3ゲームになってミナルニの働きは素晴らしく、あっという間に0－5とリードされてしまいました。ここらあたりがミナルニの作戦の巧みさで、これでこのゲームの主導権をにぎり、また観衆もよくこの状況をつかみ、一段と激しい応援になりました。

相沢・竹中組もこれに負けずに頑張り、再三相手のサービスをつぶすのですが、この激しい声援の心理的圧迫が竹中のサービスを不安定なものにし、四回のサービスで1点の割でしか得点できず、いくら相手のサービスをつぶしても、互角の闘いにしかならず、最初の5ポイントの差をつめることができず、貴重な一勝をもぎとられてしまいました。

これで2－2となったのですがこれで前述の予想したとおりの状況となり、場内は一層騒然となった中で第2ダブルスが開始されました。

テレシア・イメルダ組は若いだけに調子にのると手がつけられませんが、反面くずれやすい脆さもあるわけで、重責によって萎縮するのではないかと思ったのですが、大声援を背に受けて速攻につぐ速攻で湯木・池田組に第1ゲーム快勝したのでした。

この異常な雰囲気のなかで、初出場の池田は実力を出しきれず、また湯木も相手の速いペースに池田のカバーどころか、自分のことで精一杯となり、なすすべのないままに第1ゲームが終っていたのです。

せめて第2ゲームで湯木・池田組らしいダブルスを期待したのですが、最後まで浮足立った池田を庇い湯木は必死の頑張りをみせたのですが、テレシア・イメルダ組の攻撃は手をゆるめず一勝をあげられ2－3とリードを許したのです。

最終ダブルスは無念の完敗

角番となった第3ダブルスは三十分の休憩の後開始されました。

湯木・池田組とミナルニ・レジナ組ですが、休憩中幾分落ちついた池田の頑張りに期待したのですが、ミナルニの老巧なプレーニ攪乱され、終始リードをされ続け、第1ゲームを取られてしまいました。

このゼーム中、応援は熱狂的となり足踏みまでするようになり、到底冷静にゲームをみつめる余裕は湯木にもできない状態だったと思います。

これに乗じて有利に試合をすすめたミナルニは、ゲーム中しばしば微笑をうかべて、小憎らしいほど余裕をもっていたのではもう勝負があったと思いました。

それでも第2ゲームで湯木・池田組も必死の反撃で追いすがり、観衆もこのころにはもう大丈夫と見きわめたのか、度の過ぎた声援になりますと、自粛するほど観衆の方まで余裕ができて、ゲーム終了となり、万事休したのです。

勝敗は決しましたが、最後のダブルスは是が非でもとって、せめてカウントを3－4にと思ったのは私ばかりでなく、選手も同じ気持ちであったと思います。

この気迫がゲームに表われ、14－11とゲームポイントをにぎったのですが、七度のチャンスを最後の1ポイントに結びつけることが出来なく、遂に追いつかれセッティングにもちこまれました。ここで相沢・竹中とも精根つきはて、このゲームを失い、第2ゲームもずるずると15点を連取され、屈辱の0点で試合が終了してしまいました。

この最後のダブルスが日本チームとインドネシアチームを対照的に象徴しているのではないかと思います。

日本チームが後半、体力不足を露呈し、またこれを支える精神力の弱いのに対して、インドネシアは後半に底力を発揮する体力を保持し、気力も十分であったことを考えると残念ではありますが、この結果に甘じなければならないのかもしれません。

青春を賭けてくれた選手たち

しかし、これは結果からの判断であって、選手もスタッフも四連覇をめざして一年余最大限の努力をしたと確信しております。

選手たちは自費で選手団の一員にスポーツマッサージの専門トレーナーを同行したのも、ベストコンディションで試合にのぞむためであります。

私は青春をシャトルに賭け、ユ杯の防衛に貴重なときを費やしてトレーニングにはげみ、若いエネルギーを注ぎ込んでくれた選手たちと非力な私を全面的に支持し、難事にあたってくれた福井コーチ、中山コーチ、山本マネジャーに心からの尊敬と感謝をしております。

そして、多くのファンをはじめ全国の後援して下さった皆様にお礼とお詫びを申し上げます。

（完）



昭和５１年度日本バドミントン協会検定審査用具一覧表

日本バドミントン協会
用具委員会　（単位　円）

銘柄名	価格	会社名
検定合格		
シャトル・水鳥の部		
エリートデラックス　１打	3,900	河崎ラケット工業㈱
エリートトップ　１打	3,400	〃
エリートエース　１打	3,100	〃
№200　ゴールド　１打	3,200	㈱ゴーセン
№205　シルバー　１打	2,900	〃
ファーストゴールド　１打	3,100	有限会社　ジャワ商会
ファーストシルバー　１打	2,800	〃
ファーストグリーン　１打	2,400	〃
トーナメントホワイト　１打	3,500	㈱トヨダスポーツ
トーナメントブルー　１打	3,200	〃
トーナメントブラック　１打	2,900	〃
水鳥ビクトリー　１ケ	300	羽立工業㈱
スペシャル　１打	3,600	㈱ベータシステム
エース　１打	3,200	〃
サンバタスター　１打	3,900	㈱諸江製作所
サンバタキング　１打	3,400	〃
サンバタクィーン　１打	3,100	〃
トーナメント・デラックス　１打	3,900	ヨネックス・スポーツ㈱
トーナメント　１打	3,400	〃
オフィシャル　１打	3,100	〃
シャトル・陸鳥の部		
ファースト　１打	1,800	有限会社　ジャワ商会
サンバタ　１打	1,900	㈱諸江製作所
トレーニング検定球　１打	1,900	ヨネックス・スポーツ㈱
ネットの部		
ナイロンA（ナイロンラッセル１５本）	4,800	鐘屋産業㈱
ナイロンB（ナイロン１２本）	4,300	〃
GTO　#70-2112	4,500	㈱ジィティオ
GTO　#70-3115	4,300	〃
GTO　#70-3015	3,900	〃
ナイロンラッセル１２本	4,400	ティエヌネット㈱
ナイロン１２本	3,800	〃
KT-518	4,400	㈱寺西喜商店
倉敷ビニロン　20／12本	3,800	松本製網㈱
№481　STRバドミントンネット	4,800	ミセキネット製作所
№50　VA	4,400	〃
№52　Aバドミントンネット	3,800	〃
ポストの部		
バドミントン支柱T座式	18,000	㈱小川長春館
バドミントン支柱ホール式	11,000	〃

銘柄名	価格	会社名
№2500　キングアロー	3,200	㈱諸江製作所
№2000　キングクリッパー	2,700	〃
№900　スナップ	2,400	〃
№1000　シルバーデラックス	2,300	〃
№8　ダンディ	1,900	〃
№7　ティピカル	1,500	〃
B8100　ブラッキー	5,500	ヨネックス・スポーツ㈱
B9100　スリムステンレス	5,300	〃
B8000　アルミナハイパワー	5,000	〃
B7000　アルミナエース	5,000	〃
B9000　ハイステンレス	4,800	〃
B6000　ファイブエースデラックス	4,500	〃
B6500　トップエース	4,300	〃
B5000　ファイブエース	4,000	〃
B4000　カレッジエイトデラックス	3,800	〃
B3000　カレッジエイト	3,200	〃
B2000　キングダイヤ	2,600	〃
B　900　スリーエース	2,400	〃
B1000　クインハート	2,300	〃
B　800　スリーエイト	2,000	〃
B　700　ラッキーセブン	1,600	〃
ウエアの部		
ワンピース　（リース）	4,900	河崎ラケット工業㈱
ショートパンツ　（T.T.T）	3,700	〃
ショートパンツ　（DE'FI）	3,600	〃
半袖シャツ　（DE'FI）	3,500	〃
スコート　（DE'FI）	3,300	〃
ショートパンツ　（DE'FI）	2,700	〃
フレアースコート　（リース）	2,600	〃
半袖V衿シャツ　（リース）	2,500	〃
半袖シャツ　（DE'FI）	2,400	〃
長袖シャツ　（リース）	2,300	〃
半袖イタリアンネックシャツ（リース）	2,300	〃
半袖シャツ　（DE'FI）	2,200	〃
№508 半袖シャツ　（リース）	2,200	〃
№501 半袖シャツ　（リース）	2,200	〃
スリーブレスシャツ　（リース）	2,100	〃
プリーツスコート　（リース）	2,100	〃
スリーブレスシャツ　（リース）	2,000	〃
406 ショートパンツ　(W90～100)	2,750	㈱ゴーセン
〃　(W68～ 85)	2,600	〃
407 ショートパンツ　(W90～100)	2,750	〃
〃　(W68～ 85)	2,600	〃
N407 巻スコート　（ライン入り）	2,500	〃

DG10 バドミントン支柱	13,500	〃
バドミントンポスト	10,000	㈱都村製作所
バドミントンポスト（T字型）	10,000	〃
T座式スチールポール	22,000	ヨネックス・スポーツ㈱
ラインテープの部		
カワサキラインテープ	2,000	河崎ラケット工業㈱
赤Mラインテープ	1,800	昭和ゴム㈱
シムレスラインテープ 40㎜	2,000	タチカラ㈱
コートテープ	2,300	ヨネックス・スポーツ㈱
審査合格		
合成シャトルの部		
ナイロン球カワサキリーブ 1打	2,800	河崎ラケット工業㈱
インターナショナルハネエース 1ケ	200	羽立工業㈱
ニュートーナメント 1打	3,300	メトロレジャー㈱
インターナショナル 1打	2,600	〃
ナッシュ 1個	200	㈱諸江製作所
メイビススタンダード 1打	2,700	ヨネックス・スポーツ㈱
メイビス 1打	2,400	〃
ラケットの部・		
エリート（選手用）	5,000	河崎ラケット工業㈱
オールマン（〃）	4,500	〃
ブルーリース（〃）	4,000	〃
スタミナデラックス（〃）	3,500	〃
スタミナ（〃）	3,000	〃
ウイニングコース（〃）	3,000	〃
ファインストローク（初級用）	2,500	〃
エバーウィン（〃）	2,100	〃
ハードショット（〃）	1,800	〃
NO.B 60 スワニー（選手用）	4,500	㈱ゴーセン
NO.B 55 エクセレント（〃）	4,200	〃
NO.B 45 ハイ・トーマス（〃）	4,000	〃
NO.B 40 フイアレス（〃）	3,500	〃
NO.B 35 コスモス（〃）	3,500	〃
ニューブラック	2,800	㈱トヨダスポーツ
ニューミニ	2,300	〃
ウィンナー	1,800	〃
シルバー	1,300	〃
シルバーホークNS-5000（選手用）	4,000	㈱西山製作所
シルバーホークBX-4000（〃）	3,800	〃
カアルトン 3.7X（〃）	7,900	メトロレジャー㈱
カアルトン 3.7（〃）	7,900	〃
キャリー 7S（〃）	4,900	〃
キャリー 7G（〃）	3,900	〃
S-74 オールアタック	5,500	㈱諸江製作所
S-75 ラッシュ	5,000	〃
S-73	4,500	〃
松3500 キングメイト	4,500	〃
松3000 ゴールドキング	4,000	〃

402 ショートパンツ（W90～100）	2,250	〃
〃（W68～ 85）	2,100	〃
423 プリーツスカート	2,200	〃
373 半袖シャツ（女子用）	2,200	〃
372 半袖シャツ（男子用）	2,200	〃
172 セーター	5,600	ヨネックス・スポーツ㈱
212 ワンピース	5,500	〃
214 ワンピース	5,500	〃
176 ベスト	4,500	〃
143 男子エリカラーシャツ（長袖）	3,500	〃
144 男子エリカラーシャツ（半袖）	3,300	〃
820 ショートパンツ	3,300	〃
244 女子エリカラーシャツ	3,200	〃
120 ショートパンツ	3,000	〃
921 女子ショートパンツ	2,800	〃
200 巻きスコート	2,800	〃
920 女子ショートパンツ	2,600	〃
121 ショートパンツ	2,500	〃
242 女子ライン入りシャツ	2,300	〃
142 男子ライン入りシャツ	2,300	〃
122 ショートパンツ	2,300	〃
241 女子シャツ	2,200	〃
141 男子シャツ	2,200	〃
202 プリーツスカート	2,200	〃
201 フレアスカート	2,000	〃
シューズの部		
カワサキオリジナルシューズ	2,600	河崎ラケット工業㈱
バドミントンシューズ（レッド）	2,600	ヨネックス・スポーツ㈱
〃（グリーン）	2,600	〃
ストリングスの部		
コンカー	400	河崎ラケット工業㈱
ロンシープ	300	〃
アカツキナイロン	200	〃
ウィンテックス	700	㈱ゴーセン
ハイオーシープ（青スパイラル）	500	〃
〃（アンバー）	500	〃
ハイシープデラックス（青スパイラル）	400	〃
〃（赤スパイラル）	400	〃
ハイシープ	350	〃
LEOINA SHEEP 66	500	東亜合繊㈱
HORN SHEEP DX	400	〃
HORN SHEEP	350	〃
SANY-SHEEP SSW	300	〃
SP SHEEP	300	〃
TOA GUT	200	〃
ヨネックスシープ DX	400	ヨネックス・スポーツ㈱
ヨネックスシープ	350	〃

＜諸般の事情により，予告なく価格が変更される場合がありますが，あらかじめご了承ください＞

先月から一部三〇〇円
一年間は六〇〇円割引の三〇〇〇円

日本協会登録会員は

一年間二八〇〇円に——

◇先月もお知らせいたしましたが、今年度から本誌の定価を三〇〇円に値上げさせていただきました。そして、一年間の予約購読料もこれに伴い三〇〇〇円に値上げさせていただきました。一年間十二冊三六〇〇円のところを六〇〇円割り引きといたします。また送料もサービスとなりますので、ぜひこの便利な年間予約購読システムをご利用ください。

◇現在、発送事務を順次機械化に切り換えておりますので、住所変更の際はお早めに、ハガキで、旧住所と新住所を明記のうえご連絡くださるようお願い申し上げます。

◇また、最近転居先不明や宛名不完全で戻ってくる場合が多くなっております。友人の方などで転居先をご存知の方は、ハガキでご連絡ください。

◇なお、年間予約購読の場合、昭和五一年度日本バドミントン協会会員登録を各都道府県協会を通じて完了された方には、年間二八〇〇円にさらに割り引きとなります。この手続きは、お申し込みの際に、購読料払込用紙の所定の欄に、日本協会会員番号を記入してください。会員番号は各都道府県協会に確認のうえ、正確にご記入ください。

◇毎年製作し、好評をいただいております本誌一年分の合本バインダーを、今年は十二月に発売する予定です。郵送料は実費をご負担いただくことになりますが、バインダーは一部五〇〇円を予定しております。まだ発売までは時間がありますが、製作部数の都合上、おそれ入りますが、予約受け付けを開始いたしますので、ハガキで申込部数を明記のうえ、編集部あてお送りください。

◇現在、本誌編集担当者は、ほとんど毎日、取材等で外出しており、また事務担当者も隔日の作業をしておりますので、本誌編集部に対するお問合せ等は、お手数ですが、往復ハガキでお願いいたします。

◇編集部では常時原稿・写真のご寄稿を募集しており、お送りいただいたものはできるだけ掲載するようにしておりますが、原稿・写真は原則としてお返しできませんので、コピー・焼増をとったうえでお送りください。

◇8月22日（日）代々木第二体育館で、第2回全日本男子オールスター・バドミントンが行なわれます。詳しくは次号で。

本誌特製合本バインダー

を十二月に発売（予定）

ハガキでご予約を

＝大会予定カレンダー＝

◆すでに行われた大会

1月24・25日＝トマス杯大会
アジア東地区予選決勝（東京）
2月1日＝第5回国際競技大会（日独大会）（会津若松）
2月8日＝同大会（函館）
2月11日＝同大会（東京）
2月14・15日＝全日本総合選手権団体戦（東京）
3月5日＝第7回全日本女子チャンピオンズトーナメント（東京）
4月2・3日＝トマス杯大会アジア地区予選決勝・対マレーシア（マレーシアにて）
6月25～30日＝全日本実業団選手権（神奈川県藤沢市）

◆開催を予定し準備中の大会

8月1～6日＝全国高校総合体育大会（長野県中野市）
8月11～15日＝全日本教職員選手権（東京都）
8月18～20日＝全国中学生大会（仙台市）
9月12～15日＝全日本社会人選手権（宮崎市）
10月25～28日＝国民体育大会（佐賀県牛津町）
10月26～31日＝全日本学生選手権（東京都）
12月8～12日＝全日本総合選手権個人戦（東京都）
52年2月19・20日＝全日本総合選手権団体戦（東京都）

バドミントン界　第79号　第8巻第5号　定価 220円

昭和51年5月1日発行
編集／発行人・秦　浩

©1976　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会

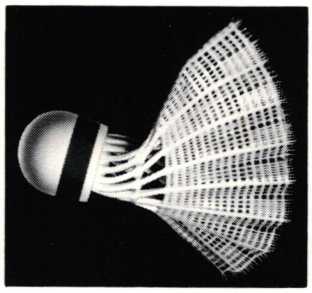
郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111（代表）内線351／03－467－7095（直通）
振替　東京32193

印刷所・明宏印刷株式会社　東京都豊島区南大塚2－29－8

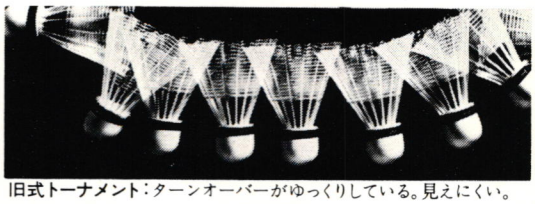
カアルトンのシャトルコックは、ガチョウ羽根の長所を完璧にとり入れました。——羽根の特殊構造と硬めのヘッドは、ネットぎわのすばやいターンオーバーと正確なスマッシュ、スピードを生むよう設計されております。また、羽根の網目は、プレー中に白く見えやすいようなデザイン。ガチョウ羽根の伝統の良さを超え、他の類似品を完全によせつけません。このすばらしい性能は、ナイロンシャトル(カアルトンで研究・開発した特殊ナイロン)の経済性を生かした、世界の傑作品です。——

carlton

総輸入元　メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5-6-4TEL(03)833-3661(代)



どんなシャトルでも、打球の瞬間は、写真のように変形が起ります。これがたび重なると、耐久性が弱まり、飛翔状態に著しく影響があらわれます。カアルトンのシャトルは、ヘッドの内部(下記イラスト参照)に回転機構を採用し、この問題を全て解決しました。—



旧式トーナメント：ターンオーバーがゆっくりしている。見えにくい。

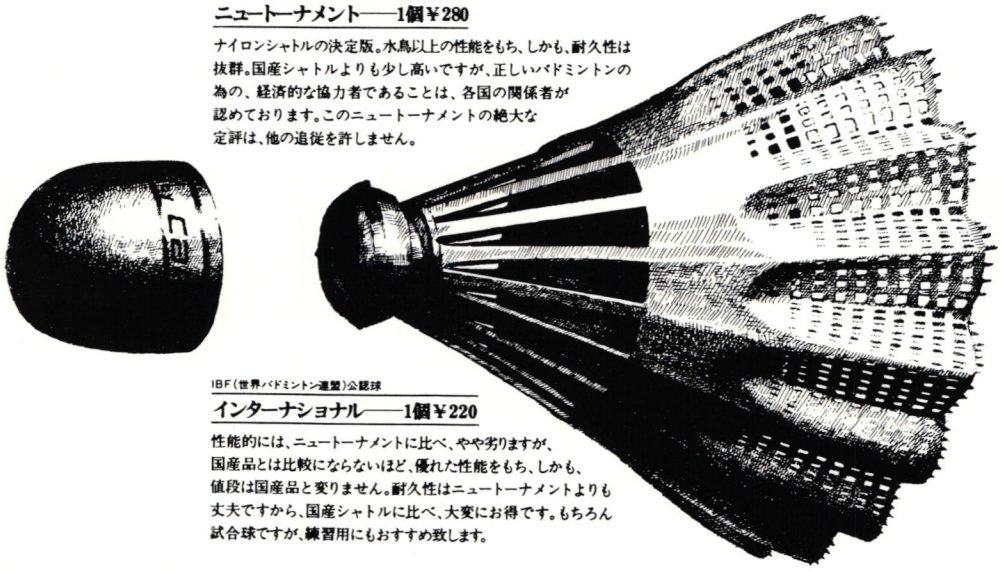


ニュートーナメント：ターンオーバーが速い。白く見えやすい。

IBF(世界バドミントン連盟)公認球

ニュートーナメント——1個￥280

ナイロンシャトルの決定版。水鳥以上の性能をもち、しかも、耐久性は抜群。国産シャトルよりも少し高いですが、正しいバドミントンの為の、経済的な協力者であることは、各国の関係者が認めております。このニュートーナメントの絶大な定評は、他の追従を許しません。



IBF(世界バドミントン連盟)公認球

インターナショナル——1個￥220

性能的には、ニュートーナメントに比べ、やや劣りますが、国産品とは比較にならないほど、優れた性能をもち、しかも、値段は国産品と変りません。耐久性はニュートーナメントよりも丈夫ですから、国産シャトルに比べ、大変にお得です。もちろん試合球ですが、練習用にもおすすめ致します。

回転機構をとり入れたカアルトンシャトル。

月刊「バドミントン界」第79号
昭和五十一年五月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日　第三種郵便物認可
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価三〇〇円

このマークを語らずに

K

「世界の日本」は語れない。



NO.B-75〈エリート〉
モスグリーンメタリック（ケース付）
フレーム価格￥5,000



NO.B-73〈オールマン〉
ブルーメタリック（ケース付）
フレーム価格￥4,500

日本バドミントン協会推薦

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社